

高知大学 教育研究部 総合科学系

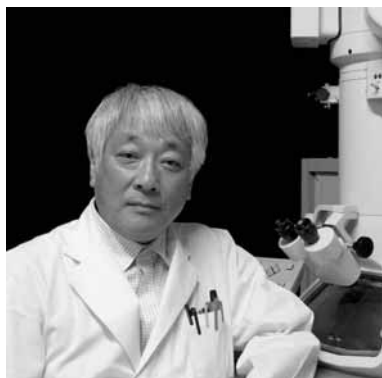
黒潮圏総合科学部門年報

高知大学 大学院 総合人間自然科学研究科

黒潮圏総合科学専攻年報

2011 年度

2011 年度年報の発行にあたって



黒潮圏総合科学専攻長
奥田一雄



黒潮圏科学部門長
飯國芳明

21 世紀になってから早 10 年が経過しました。皆さま方には益々ご清栄のことと拝察いたします。

さて、このたび、黒潮圏総合科学専攻および黒潮圏科学部門の 2011 年度年報を発行するはこびとなりました。専攻担当教員と大学院生、併せて部門所属教員の 1 年間にわたる様々な活動と実績をまとめました。「黒潮圏科学 (Kuroshio Science)」という新しい教育・研究とその実践に対し、ご理解とご賛同をいただければと願っております。

本学大学院の総合人間自然科学研究科への一元化改組 (2008 年度) の後、黒潮圏総合科学専攻は 32 名の教員を擁し、大学院博士課程教育の一翼を担ってきております。2011 年度は 4 名の課程博士 (ブラジル、フィリピン、タイ、インドネシア) と 1 名の論文博士 (フィリピン) の学位を授与しました。このような本専攻の国際性は、国際連携・交流活動のベースとして黒潮圏諸国の教育・研究機関 (フィリピンのビコール大学、フィリピン大学および農業省漁業水産資源局第 2 地域支所、台湾の国立中山大学、マレーシアのサラワク大学、インドネシアのタンジュンプラ大学) と国際交流協定を締結してきたことと深く関連します。この黒潮圏国際ネットワークは大学院生の教育・研究に活かされるのみならず、本部門に所属する 21 名の教員による国際共同研究の推進にも大きく寄与しています。

専攻と部門の名称になっている「黒潮圏科学」を国際的にも認知してもらう一環として、私たちは黒潮圏科学国際シンポジウムを 2007 年度から毎年開催してきています。第 5 回となる 2011 年度は台湾の国立中山大学がホストとなり、本学の教員と大学院生を含めて 8 カ国から 70 名余が参加し、「地球規模の気候および社会・経済状況の変動への適応」というメインテーマのもとで数多くの研究発表と活発な意見交換がなされました。

「黒潮圏科学」を学問として確立するため、その研究成果を国内外へ発信する取り組みも行ってきました。2007 年度に学術誌「Kuroshio Science」を創刊して以来、英文誌と和文誌を毎年発行し、自然と人間の共生をコンセプトとする「黒潮圏科学」の研究とコミュニティの輪が着実に広がってきました。2011 年度には、第 5 巻第 1 号において、2010 年に高知大学で開催された黒潮圏科学国際シンポジウムのプロシーディングスを中心に 10 編の論文を掲載し、第 5 巻第 2 号では、6 編の研究論文とともに、特集として企画されたキューバ関係の 3 編の論文を掲載しました。

本年報をご覧いただき、ご質問やご意見等をお聞かせいただければ、幸甚に存じます。本専攻と本部門の活動を改善してさらに充実していくために、皆さま方からご指導とご鞭撻をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| I. 専攻と部門の概要と特徴 | 1 |
| 1. 「黒潮圏科学」とは | 1 |
| 2. 専攻組織と教員構成 | 2 |
| 3. 部門組織と教員構成 | 2 |
| II. 教育活動 | 6 |
| 1. 教育の概要 | 6 |
| (1) 黒潮圏総合科学専攻 | 6 |
| (2) 修士課程, 学部等 | 8 |
| 2. 学内助成の獲得 | 15 |
| (1) 高知大学年度計画実施経費 (大学改革推進経費) | 15 |
| (2) 研究科長裁量経費 | 16 |
| III. 大学院生の活動 | 17 |
| 1. 学位取得者 (2011年9月, 2012年3月) | 17 |
| 2. 業績 | 17 |
| (1) 発表論文など (査読審査あり) | 17 |
| (2) 発表論文など (査読審査なし) | 19 |
| (3) 国際学会発表 | 19 |
| (4) 国内学会発表 | 21 |
| (5) その他特筆すべき事項 | 23 |
| IV. 研究活動 | 24 |
| 1. 学術雑誌の発行 | 24 |
| (1) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」第5巻1号 | 24 |
| (2) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」第5巻2号 | 25 |
| 2. 学外助成の獲得 | 25 |
| 3. 学内助成の獲得 | 26 |
| 4. 部門内研究の推進制度 | 26 |
| 5. 各教員の研究成果 | 27 |
| (1) 発表論文 | 27 |
| (2) 学会活動に関する事項 | 34 |
| (3) その他の研究活動に関する事項 | 43 |
| (4) 研究費採択状況 | 44 |
| V. 国際・地域貢献 | 49 |
| 1. 公開講座・委員会活動等 | 49 |
| (1) 公開講座・講演会・講習会・研修会等 | 49 |
| (2) 他大学講義等 | 51 |
| (3) 他機関との連携 | 52 |
| (4) 委員会・審議会活動 | 54 |
| (5) 国際交流・国際セミナー | 56 |
| (6) 留学生・研究者受け入れ | 59 |
| (7) 管理運営 (学内委員会) | 60 |
| (8) ボランティア | 63 |
| 2. シンポジウム・セミナー等 | 64 |
| (1) 黒潮圏シンポジウム | 64 |
| (2) 国際シンポジウム・セミナー | 64 |
| (3) その他のシンポジウム | 64 |
| (4) 専攻・部門主催公開セミナー | 64 |
| VI. マスコミ報道 | 66 |
| 1. 広報・啓発活動 | 66 |
| 2. 新聞報道等 | 67 |

1. 専攻と部門の概要と特徴

1. 「黒潮圏科学」とは

黒潮圏総合科学専攻という、みなさんは黒潮を研究しているように思うかも知れません。しかし、私たちは黒潮そのものではなく、「黒潮圏科学」という新しい学問概念を打ち出し、自然と人間の共生を目指す研究を進めています。では、「黒潮圏科学」はどのような学問なのでしょう。

黒潮はフィリピン東沖を起点として台湾付近から南西諸島、そして九州沖や土佐沖を経て房総半島沖まで流れる大海流です。それゆえ、黒潮は周辺地域の気象や、生物の分布、人間の生活などに大きな影響をもたらしています。地理的に黒潮と黒潮の影響を受ける広汎な海域と陸域全体を狭義の黒潮圏域とよびます。そこにはインドネシア、マレーシア、フィリピンなどの熱帯諸国、台湾、中国、本邦などの亜熱帯から温帯までの諸国が含まれています。一方、これらの国々には当然ながら多くの人間が住み、それぞれ様々な人間生活と活動が営まれています。そのため、諸国間で文化や経済面での交流が進むだけでなく、自然破壊や公害、食料不足、疫病などの問題も国境を越えて発生し、拡大してきます。このように、広義の黒潮圏域は、そこにある自然とそこに住む人間の活動および諸問題等を含んだ全体を指すということになります。

広義の黒潮圏域は黒潮で結びついている運命共同体です。そこには、様々な環境や物質、多様な生物と人間を含む地球を構成しているすべての要素が存在しています。そこではまた、地球規模の環境問題、食糧問題、人口問題なども象徴的に表出してきます。これらは1つの地域や国の問題を越え、世界的に取り組んで解決しなければならない大きな課題です。このことは同時に、黒潮圏域を地球全体のモデルとして研究することで、地球規模の諸問題のありかを明らかにし、ひいては解決への道程を導き出せることを示しています。このような見地で、人類が自然と共生し、持続的に生存できる社会のありかたと方向を科学的に研究する学問が必要であり、私たちはこの学問を「黒潮圏科学」と称しています。

「黒潮圏科学」は黒潮圏域の地域の諸問題に必ずしも直接対処するわけではありません。言い換えれば、その場の対症療法的、モグラたたきの対応に終始する学問ではないのです。「黒潮圏科学」では、たとえば、一見別々に起こる諸問題から、どのような人間活動が地球の環境や生態系を攪乱しているのかという根本的な因果関係を明らかにし、人間活動の方向性を転換させることを考えます。また、現在行っている、またはこれから始めようとする人間活動が自然界の正常な物質循環に及ぼす影響を評価し、それが悪い影響であれば、どのような予防策を採ればよいかを考えます。

「黒潮圏科学」を実現するには、問題を俯瞰して把握し、専門分野を越えて分析し、協働して解決の道を探ることが必須です。そのため、「黒潮圏科学」は細分化した従来型の学問ではなく、文理融合した新しい学問分野として創出されました。

以上のような「黒潮圏科学」のもつコンセプトを理解し、対象とするそれぞれの専門研究を深化させつつ、その研究を「黒潮圏科学」の目標につなげて発展させる意欲と想像力、行動力を磨くところ、それが、黒潮圏総合科学専攻です。

Kuroshio Science

We are now faced with critical issues world-wide, such as rapid increases in population, the food crisis, the depletion of natural resources, environmental pollution and global warming. These problems are so complex and extensive that they cannot always be addressed only within classically-defined disciplines. We must consider how

we can harmonize human activities with global ecosystems and what policies and devices are essential to achieve these goals from multiple scientific and sociological standpoints. We have created a new field of study, "Kuroshio Science", in order to realize these goals along the lines of the above concepts. Our mission is to contribute to establishing a sustainable socioeconomic system by which substances may be cycled in natural environments and preserve valuable environments and biological diversity for the next generation.

The Department of Kuroshio Science, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Kochi University, is the first educational and academic organization in the world that specializes in "Kuroshio Science". Research is carried out in areas of specialization that cross the boundaries between multidisciplinary sciences concerned with resources, environments, societies, and human health. Included among the broad areas of specialization are fish ecology, plant morphology, cell biology, cell physiology, virology, cetacean population biology, microbiology, pedology, social economics, socio-economic history, meteorology, geology, immunobiology, organic chemistry, molecular genetics, and human care science. The Department of Kuroshio Science also offers curricula that help graduate students to become aware of the harmonious coexistence that occurs between nature and human beings.

2. 専攻組織と教員構成

黒潮圏総合科学専攻は 2 つのコース、4 つの領域、7 つの分野から構成されています。共生科学コースには、流域圏資源科学領域（生物資源生産分野、生物構造機能分野、鯨類資源生態系分野）、流域圏環境科学領域（環境保全分野、環境変動・社会分野）、海洋健康医科学領域（海洋健康医科学分野）、および、人間科学領域（人間科学分野）が配置されています。

専攻の教員は黒潮圏総合科学専攻（博士課程）を担当しますが、ほとんどの教員はそれぞれの専門に関連する学部と修士課程の教育も担当しています。それゆえ、様々な考え方をを持った異なる専門分野の教員が文理を横断した幅広い教育を展開しています。本専攻の学生定員は 1 学年 6 名（収容定員は 6 名×3 学年＝18 名）です。連携および客員を含む 32 名の専攻担当教員のカリキュラム上の配置等は表 1 をご覧下さい。

3. 部門組織と教員構成

黒潮圏総合科学部門は教育研究部の 4 つの学系のうちの総合科学系に属しています。本部門の目的は以下の通りです。

(1) 文理融合および分野俯瞰型の新しい学問として「黒潮圏科学」を推進する。人類が自然・生態系に調和・共生できる社会の実現を目指す研究を行い、多様な専門分野を深化させつつ、その成果と国際ネットワークを活かして国内外の研究機関と連携し、共同研究プロジェクトを企画・実施する。

(2) 専門を深く究めると同時に、その専門分野を越えて俯瞰的視野で問題を把握し、協働して問題を解決する教育・研究を通し、広範な知識を応用できる思考能力と想像力を備え、異文化や多様な自然観・価値観を理解・共有できる国際性豊かな人材を育成する。

「黒潮圏科学」のコンセプトに関連し、台湾およびフィリピン両国の研究機関との国際共同研究に基づき、黒潮圏総合科学部門の研究フィールドとして「黒潮トライアングル」を設定しております（下図を参照）。なお、本部門に所属する 21 名の教員の専門分野は表 2 をご覧下さい。

黒潮圏域と黒潮トライアングルと黒潮S状帯

黒潮圏域という言葉は、広い意味で黒潮の影響を受ける東南アジア地域一帯を含んでいますが、狭い意味では、黒潮が直接に沖を流れ、その影響がより強くもたらされるフィリピン、台湾、本邦の沿岸地域および島嶼を指します。フィリピンのビコール地方（黒潮上流）と台湾の台東県（黒潮中流）および本邦の高知県（黒潮下流）を結んだ地帯を私たちは黒潮トライアングルとよび、「黒潮圏科学」のモデルとなる調査・研究フィールドとしています。本年度からは、このトライアングルにマレーシア、インドネシアを加えた黒潮S状帯を定義しています。



表 1. 黒潮圏総合科学専攻担当教員

2011年4月1日現在

| 領域 | 分野 | 職種 | 氏名 | 担当学部 | 担当修士課程 |
|---------|-------------------|-------------|------------------------|------------------------|--------------------|
| 流域圏資源科学 | 生物資源生産 | 教授 | ウエダ ヒロシ 上田 拓史 | 総合研究センター (兼任担当：農学部) | 農学 |
| | | 教授 | キノシタ イズミ 木下 泉 | 総合研究センター (兼任担当：農学部) | 農学 |
| | | 教授 | ヤマオカ コウサク 山岡 耕作 | 農学部 | 農学 |
| | | 准教授 | イダニ キョウ 伊谷 行 | 教育学部 | 教育学 |
| | | 准教授 | ヒラオカ マサノリ 平岡 雅規 | 総合研究センター (兼任担当：理学部) | 理学 |
| | | 助教 | ナカムラ ヨウヘイ 中村 洋平 | 農学部 | 農学 |
| | | 客員教授 | マツダ ヒロユキ 松田 裕之 | 横浜国立大学 | |
| | | 客員准教授 | カンダ マサル 神田 優 | 黒潮実感センター | |
| | 生物構造機能 | 教授 | オオシマ シュンイチロウ 大島 俊一郎 | 農学部 | 農学 |
| | | 教授 | オウダ カスオ 奥田 一雄 | 理学部 | 理学 |
| | | 教授 | ハラダ テツオ 原田 哲夫 | 教育学部 | 教育学 |
| | | 准教授 | ミネ イチロウ 峯 一朗 | 理学部 | 理学 |
| | | 准教授 | セキダ サトコ 関田 諭子 | 理学部 | 理学 |
| | 鯨類資源生態系 | 准教授 (連携大学院) | タナベ トシユキ 田邊 智唯 | 独立行政法人水産総合 研究センター | |
| 流域圏環境科学 | 環境保全 | 教授 | ガモウ ケイジ 蒲生 啓司 | 教育学部 | 教育学 |
| | | 准教授 | タナカ ソウタ 田中 壮太 | 農学部 | 農学 |
| | 環境変動・社会 | 教授 | イイクニ ヨシアキ 飯國 芳明 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 教授 | イシカワ シンゴ 石川 慎吾 | 理学部 | 理学 |
| | | 教授 | オギ シンイチロウ 萩 慎一郎 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 教授 | シンボ アルユキ 新保 輝幸 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 教授 | スギタニ タカシ 杉谷 隆 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 教授 | タムラ ヤスオキ 田村 安興 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 教授 | ヨシオ ヒロシ 吉尾 寛 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 教授 | ヨシクラ シンイチ 吉倉 紳一 | 理学部 | 理学 |
| | | 助教 | カトウ モトミ 加藤 元海 | 理学部 | 理学 |
| | | 助教 | ホリ ミサ 堀 美菜 | 人文学部 | 人文社会科学 |
| | | 海洋健康医科学 | 海洋健康医科学 | 教授 | オオタニ カスヒロ 大谷 和弘 |
| 教授 | トミチカ アキラ 富永 明 | | | 医学部 | 医科学 |
| 准教授 | クボタ サトシ 久保田 賢 | | | 医学部 | 農学 |
| 准教授 | タケチ タカヒロ 田口 尚弘 | | | 医学部 | |
| 人間科学 | 人間科学 | 教授 | ミゾフチ シュンジ 溝渕 俊二 | 医学部 | 看護学 |
| | | 教授 | カタオカ マリ 片岡 万里 | 医学部 | 看護学 |

表 2. 黒潮圏科学部門担当教員

2011年4月1日現在

| 職種 | 氏名 | 専門分野 |
|------|---------------------------------------|-----------|
| 教授 | 飯國 芳明 <small>イイグニ ヨシアキ</small> | 農業経済学 |
| | 市村 高男 <small>イチムラ タカオ</small> | 日本史 |
| | 上田 拓史 <small>ウエダ ヒロシ</small> | 動物プランクトン学 |
| | 大島 俊一郎 <small>オオシマ シュンイチロウ</small> | 病原微生物学 |
| | 大谷 和弘 <small>オオタニ カズヒロ</small> | 天然物有機化学 |
| | 奥田 一雄 <small>オクダ カズオ</small> | 植物形態学 |
| | 木下 泉 <small>キノシタ イズミ</small> | 魚類初期生活史 |
| | 新保 輝幸 <small>シンボ テルユキ</small> | 環境経済学 |
| | 富永 明 <small>トミナガ アキラ</small> | 免疫学 |
| | 山岡 耕作 <small>ヤマオカ コウサク</small> | 魚類生態学 |
| 准教授 | 石塚 悟史 <small>イシヅカ サトシ</small> | 産学官民連携 |
| | 久保田 賢 <small>クボタ サトシ</small> | 地域保健栄養学 |
| | 関田 諭子 <small>セキダ サトコ</small> | 細胞生物学 |
| | 田口 尚弘 <small>タグチ タカヒロ</small> | 分子細胞遺伝学 |
| | 田中 壮太 <small>タナカ ソウタ</small> | 熱帯土壌学 |
| | 平岡 雅規 <small>ヒラオカ マサノリ</small> | 海洋植物学 |
| | 峯 一郎 <small>ミネ イチロウ</small> | 藻類細胞生物学 |
| 助教 | 加藤 元海 <small>カトウ モトミ</small> | 理論生物学 |
| | 中村 洋平 <small>ナカムラ ヨウヘイ</small> | 魚類生態学 |
| | 堀 美菜 <small>ホリ ミナ</small> | 漁村社会学 |
| 特任教授 | 諸岡 慶昇 <small>モロオカ ヨシノリ</small> | 開発経済学 |

II. 教育活動

1. 教育の概要

(1) 黒潮圏総合科学専攻

1) 黒潮圏総合科学特論

日時：2011年9月26日（月）～27日（火）

場所：物部キャンパス 黒潮圏総合科学専攻棟
2階会議室

担当教員：奥田一雄，杉谷隆，伊谷行，山岡耕作，新保輝幸（9月26日），峯一朗，上田拓史，平岡雅規，堀美菜，加藤元海（9月27日）

○大島 俊一郎

DCセミナー

黒潮圏セミナー

特別講究

分子細胞生物学特論

○大谷 和弘

DCセミナー

○奥田 一雄

DCセミナー

2) 黒潮圏セミナー

日時：2011年6月22日（水），7月27日（水）

場所：朝倉キャンパス総合研究棟，物部キャンパス大会議室

発表学生：山脇京子，中城満，山ノ内崇志（6月22日），和田快（7月27日）

○木下 泉

DCセミナー

特別講究

○新保 輝幸

地域環境経済論特論

黒潮圏総合科学特論

3) 特別講究

日時：2011年8月28日（日）

場所：物部キャンパス大会議室

発表学生：Hau Duc Tran

○関田 諭子

DCセミナー

○田口 尚弘

DCセミナー

黒潮圏総合科学特論

分子細胞遺伝学特論

4) 講義

○飯國 芳明

地域農林経済論特論

○伊谷 行

底生生物学特論

○田中 壮太

DCセミナー

○上田 拓史

DCセミナー

海洋浮遊生物学特論

○富永 明

DCセミナー

特別講究

免疫学特論

○原田 哲夫
DCセミナー
海洋圏環境生理学特論
黒潮圏セミナー

○平岡 雅規
DCセミナー
進化生態学特論

○溝渕 俊二
DCセミナー
黒潮圏セミナー
生活環境健康安全科学特論

○山岡 耕作
DCセミナー
特別講究

(2) 修士課程，学部等

1) 黒潮圏総合科学特論(修士課程黒潮圏準専攻)

日時：2011年9月5日(月)～7日(水)

場所：朝倉キャンパス 総合研究棟 3階 プロジェクト研究室1

担当教員：飯國芳明，大谷和弘，大島俊一郎，
荻慎一郎(9月5日)，原田哲夫，吉尾寛，
田口尚弘，久保田賢(9月6日)，吉倉紳一，
富永明，田村安興(9月7日)

2) 担当講義，実験，実習

【専攻教員】

○飯國 芳明

・ 共通教育

黒潮圏科学の魅力 (講義)

森との共生を探る (講義)

・ 学部

ミクロ経済学Ⅰ (人文学部：講義)

専門演習Ⅰ・Ⅱ (人文学部：演習)

卒業論文・専門演習Ⅲ・Ⅳ (人文学部：演習)

・ 大学院

黒潮圏総合科学特論 (修士課程)

地域農業構造論演習Ⅰ (修士課程)

地域農業構造論特論 (修士課程)

○伊谷 行

・ 共通教育

海洋生物学 (講義)

海洋生物学基礎実験 (実験・実習)

自然の法則 (講義)

生活環境学概論 (講義)

・ 学部

環境技術概論 (教育学部：講義)

教科専門演習Ⅰ(教育学部：演習)

教科専門演習Ⅱ (教育学部)

支援実習Ⅰ (教育学部：実習)

支援実習Ⅱ (教育学部：実習)

自然環境教育論 (教育学部：講義)

初等理科 (教育学部：講義)

生物学Ⅱ (教育学部：講義)

生物学演習Ⅰ (教育学部：演習)

生物学演習Ⅱ (教育学部：演習)

生物学実験Ⅰ (教育学部：実験)

生物学実験Ⅱ (教育学部：実験)

生物環境学 (教育学部：講義)

生物環境学演習 (教育学部：演習)

卒業論文(研究) (教育学部：演習)

理科基礎演習Ⅱ (教育学部：演習)

・ 大学院

教科内容基礎論(生物学2)Ⅰ(修士課程)

教科内容基礎論(生物学2)Ⅱ(修士課程)

教科内容基礎論(生物学2)Ⅲ(修士課程)

黒潮圏総合科学特別研究Ⅰ(修士課程)

黒潮圏総合科学特別研究Ⅱ(修士課程)

小中学校理科実験演習(修士課程)

○上田 拓史

・ 学部

公開臨海実習(理学部：実習)

栽培漁業学演習(農学部)

水界生態学(理学部：講義)

卒業論文(農学部)

卒業論文演習Ⅰ(農学部)

卒業論文演習Ⅱ(農学部)

浮遊生物学(農学部：講義)

・ 大学院

水族生態学演習Ⅰ(修士課程)

水族生態学演習Ⅱ(修士課程)

水族生態学演習Ⅲ(修士課程)

水族生態学演習Ⅳ(修士課程)

水族生態学特論Ⅲ(修士課程)

○大島 俊一郎

・ 共通教育

魚と食と健康(講義)

黒潮圏科学の魅力(講義)

微生物学概論（講義）
 ・学部
 魚類生理学実験（農学部：実験）
 魚類防疫学（農学部：講義）
 国際・地域栄養食科学（農学部：講義）
 栽培漁業学演習（農学部）
 水産微生物学実験（農学部：実験）
 水族病理学実習（農学部：実習）
 卒業論文（農学部）
 卒業論文（農学部）
 卒業論文演習Ⅰ（農学部）
 卒業論文演習Ⅱ（農学部）
 ・大学院
 AAP ウイルス免疫学（修士課程）
 科学実験計画法（修士課程）
 科学論文作成法（修士課程）
 魚病学演習Ⅰ（修士課程）
 魚病学演習Ⅲ（修士課程）
 科学実験計画法（修士課程）
 農学実験・調査Ⅰ（修士課程）
 魚病学特論Ⅰ
 魚病学特論Ⅱ
 研究プレゼンテーション技法Ⅰ（修士課程）
 研究プレゼンテーション技法Ⅱ（修士課程）
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 持続可能な水産生物資源の生産と活用（修士課程）

○大谷 和弘

・共通教育
 学問基礎論（講義）
 黒潮圏科学の魅力（講義）
 情報処理（演習）
 生命の科学（講義）
 土佐の海の環境学Ⅰ：柏島の海から考える（：講義）
 土佐の海の環境学Ⅱ：柏島の海から考える（：講義）

・学部
 海外フィールドサイエンス実習Ⅰ（農学部：実験・実習）
 海外フィールドサイエンス実習Ⅱ（農学部：実験・実習）
 海外フィールドサイエンス実習Ⅲ（農学部：実験・実習）
 外国書講読Ⅰ（農学部：講義）
 外国書講読Ⅱ（農学部：講義）
 植物資源機能科学（農学部：講義）
 卒業論文（農学部）
 卒業論文演習Ⅰ（農学部）
 卒業論文演習Ⅱ（農学部）
 熱帯環境論（農学部：講義）
 熱帯林業論（農学部：講義）
 ・大学院
 科学実験計画法（修士課程）
 海外フィールドサイエンス特別実習Ⅰ（修士課程）
 海外フィールドサイエンス特別実習Ⅱ（修士課程）
 研究プレゼンテーション技法（修士課程）
 国際支援学特別セミナーⅠ（修士課程）
 国際支援学特別セミナーⅡ（修士課程）
 黒潮圏セミナー（総合人間自然科学研究科（修士課程）：講義）
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 天然生理活性物質科学特論（修士課程）

○奥田 一雄

基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）
 細胞生物学（理学部：講義）
 細胞生物学実験（理学部：実験）
 細胞生理学（理学部：講義）
 実験安全教育（理学部：実験）
 植物生理学（理学部：講義）
 生物科学英語ゼミナール（理学部：演習）
 生物科学実験（理学部：実験）
 専門情報処理演習（理学部：演習）

卒業研究（理学部：演習）
 臨海実習（理学部：実習）
 ・大学院
 細胞構築学特論（修士課程）
 特別講究（黒潮圏総合科学専攻：演習）
 理学ゼミナールⅠ（修士課程）
 理学ゼミナールⅡ（修士課程）
 理学実習Ⅰ（修士課程）
 理学特別研究（修士課程）

○片岡 万里
 ・学部
 高齢者看護援助論(演)（医学部：講義）
 高齢者看護学概論(演)（医学部：講義）
 高齢者看護学実習（医学部：実習）
 国際看護活動論(演)（医学部：演習）
 老年看護学実習（医学部：実習）
 ・大学院
 看護倫理（総合人間自然科学研究科（修士課程）：講義）
 成人・老人看護学演習（修士課程）
 成人・老人看護学特論Ⅱ（修士課程）
 特別研究(ゼミナール)（修士課程）
 特別研究(研究計画立案)（修士課程）
 特別研究(研究発表)（修士課程）
 特別研究(実験・調査)（修士課程）
 特別研究(論文作成)（修士課程）

○加藤 元海
 ・共通教育
 黒潮圏科学の魅力（講義）
 ・学部
 基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）
 生物科学実験（理学部：実験）
 卒業研究（理学部）
 卒業研究（理学部：演習）
 理論生物学（理学部：講義）
 陸水生物学実習（理学部：実習）

・大学院
 数理生態学特論（修士課程）
 理学ゼミナールⅠ（修士課程）
 理学ゼミナールⅡ（修士課程）
 理学実習Ⅰ（修士課程）
 理学実習Ⅱ（修士課程）
 理学特別研究（修士課程）

○蒲生啓司
 ・共通教育
 自然の法則（講義）
 物質の科学（講義）
 環境化学物質をどう考えるか（講義）
 ・学部
 初等理科（教育学部：実験）
 生活環境論（教育学部：講義）
 理科基礎演習Ⅱ（教育学部：演習）
 支援実習Ⅰ（教育学部：実習）
 支援実習Ⅱ（教育学部：実習）
 専門演習Ⅰ（教育学部：演習）
 教科専門演習Ⅰ（教育学部）
 教科専門演習Ⅱ（教育学部）
 専門演習Ⅱ（教育学部：演習）
 化学Ⅰ（教育学部：講義）
 化学Ⅱ（教育学部：講義）
 化学Ⅲ（教育学部：講義）
 化学演習Ⅰ（教育学部：演習）
 化学特講（教育学部：講義）
 化学実験Ⅰ（教育学部：実験）
 教科内容研究方法論Ⅰ（教育学部：演習）
 教科専門演習Ⅲ（教育学部：演習）
 教科専門演習Ⅳ（教育学部：演習）
 卒業論文（教育学部）
 自然環境教育論（教育学部：講義・演習）
 化学概論Ⅰ（教育学部：講義）
 化学概論Ⅱ（教育学部：講義）
 分析化学Ⅰ（教育学部：講義）
 化学実験Ⅰ（教育学部：実験）

分離化学（理学部：講義）

・大学院

教材開発演習（理科）Ⅰ（修士課程）

教材開発演習（理科）Ⅱ（修士課程）

教科内容基礎論（化学Ⅰ）Ⅰ（修士課程）

教科内容基礎論（化学Ⅰ）Ⅱ（修士課程）

教科内容基礎論（化学Ⅰ）Ⅲ（修士課程）

小中学校理科実験演習（修士課程）

教育実践研究（理科）Ⅰ（修士課程）

教育実践研究（理科）Ⅱ（修士課程）

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

黒潮圏総合科学特別研究Ⅱ（修士課程）

○木下 泉

・共通教育

海洋生物学（講義）

海洋生物学基礎実習（実験・実習）

自然環境と人間（講義）

・学部

魚類学各論（農学部：講義）

卒業論文（農学部：その他）

卒業論文演習Ⅰ（農学部：演習）

卒業論文演習Ⅱ（農学部：演習）

・大学院

科学実験計画法（総合人間自然科学研究科（修士課程）：講義）

科学論文作成法（総合人間自然科学研究科（修士課程）：演習）

研究プレゼンテーション技法（修士課程）

水族生態学演習（総合人間自然科学研究科（修士課程）：演習）

水族生態学特論（総合人間自然科学研究科（修士課程）：講義）

農学実験・調査（修士課程）

○久保田 賢

・共通教育

環食同源論入門（講義）

黒潮圏科学の魅力（講義）

・学部

医科生物学実習（医学部：実習）

国際・地域栄養食科学（農学部：講義）

食品学（教育学部：講義）

食品学（教育学部：講義）

生物学Ⅰ（医学部：講義）

生物学入門（医学部：講義）

・大学院

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

天然生理活性物質科学特論（修士課程）

○新保 輝幸

・共通教育

黒潮圏科学の魅力（講義）

土佐の海の環境学Ⅰ：柏島の海から考える（：その他）

土佐の海の環境学Ⅱ：柏島の海から考える（：その他）

・学部

環境経済学（人文学部：講義）

卒業論文・専門演習Ⅲ・Ⅳ（人文学部：演習）

○関田 諭子

・共通教育

基礎生物学実験（実験）（1学期）

基礎生物学実験（実験）（2学期）

黒潮圏科学の魅力（講義）

生物学概論Ⅰ（講義）

大学基礎論（講義）

・学部

基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）

細胞構造学（理学部：講義）

細胞生物学実験（理学部：実験）

生物科学実験（理学部：実験）

卒業研究（理学部）

卒業研究（理学部：演習）

臨海実習（理学部：実習）

・大学院

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

細胞微細形態学特論（修士課程）

理学ゼミナールⅠ（修士課程）

理学ゼミナールⅡ（修士課程）

理学実習Ⅰ（修士課程）

理学実習Ⅱ（修士課程）

理学特別研究（修士課程）

○田口 尚弘

・共通教育

黒潮圏科学の魅力（講義）

・学部

医科生物学実習（医学部：実習）

細胞分子生物学（医学部：講義）

細胞分子生物学（理学部：講義）

生物学入門（医学部：講義）

臨床遺伝病学総論（医学部：講義）

・大学院

黒潮圏総合科学特論（総合人間自然科学研究科
（修士課程）：講義）

○田中 壮太

・共通教育

ライフサイエンスの世界（講義）

黒潮圏科学の魅力（講義）

・学部

海外フィールドサイエンス実習Ⅰ（農学部：実習）

外国書講読Ⅰ（農学部：講義）

外国書講読Ⅱ（農学部：講義）

基礎外書講読Ⅰ（農学部：講義）

基礎外書講読Ⅱ（農学部：講義）

食料科学応用実験Ⅰ（農学部：実験）

食料科学応用実験Ⅱ（農学部：実験）

食料科学実験Ⅰ（農学部：実験）

生物資源科学実験Ⅰ（農学部）

生命化学演習（農学部：演習）

生命化学応用実験Ⅰ（農学部：実験）

生命化学応用実験Ⅱ（農学部：実験）

生命化学実験Ⅰ（農学部：実験）

専門外国語Ⅰ（農学部：講義）

専門外国語Ⅱ（農学部：講義）

専門外書講読Ⅰ（農学部：講義）

専門外書講読Ⅱ（農学部：講義）

卒業論文（農学部）

卒業論文演習Ⅰ（農学部）

卒業論文演習Ⅱ（農学部）

土壌学（農学部：講義）

土壌微生物生態学（農学部：講義）

熱帯生物環境化学（農学部：講義）

・大学院

AAP 研究プレゼンテーション技法Ⅰ（修士課程）

AAP 生物資源管理実験・調査Ⅱ（修士課程）

AAP 生物資源管理実験・調査Ⅳ（修士課程）

AAP 生物資源管理特別演習Ⅱ（修士課程）

AAP 生物資源管理特別演習Ⅲ（修士課程）

AAP 土壌環境学（修士課程）

科学論文作成法（修士課程）

研究プレゼンテーション技法Ⅰ（修士課程）

土壌環境学演習Ⅰ（修士課程）

土壌環境学演習Ⅱ（修士課程）

土壌環境学演習Ⅲ（修士課程）

土壌環境学演習Ⅳ（修士課程）

土壌環境学実験Ⅰ（修士課程）

土壌環境学実験Ⅱ（修士課程）

土壌情報解析学特論（修士課程）

土壌生態学特論（修士課程）

農学実験・調査Ⅱ（修士課程）

○富永 明

・共通教育

黒潮圏科学の魅力（講義）

・学部

医科生物学実習（医学部：実習）

細胞分子生物学（理学部：講義）

細胞分子生物学（医学部：講義）

生物学Ⅱ（医学部：講義）
臨床遺伝病学総論（医学部：講義）
・大学院
黒潮圏総合科学特論（修士課程）
資源と生命（修士課程）
生体防御のしくみ（修士課程）

○中村 洋平

・共通教育
学問基礎論（農学部：講義）
魚と食と健康（講義）
黒潮圏科学の魅力（講義）
自然環境と人間（講義）
土佐の海の環境学Ⅰ: 柏島の海から考える（講義）
土佐の海の環境学Ⅱ: 柏島の海から考える（講義）

・学部
フィールドサイエンス実習（農学部：実習）
科学英語Ⅱ（農学部：講義）
魚類生態学（農学部：講義）
卒業論文（農学部）
卒業論文演習Ⅰ（農学部）
卒業論文演習Ⅱ（農学部）

・大学院
持続可能な水産生物資源の生産と活用（修士課程）
水族生態学演習Ⅰ（修士課程）
水族生態学演習Ⅱ（修士課程）
水族生態学演習Ⅳ（修士課程）
水族生態学特論Ⅰ（修士課程）
科学実験計画法（修士課程）
農学実験・調査Ⅰ（修士課程）
農学実験・調査Ⅱ（修士課程）
研究プレゼンテーション技法Ⅰ（修士課程）
農学実験・調査Ⅲ（修士課程）
科学論文作成法（修士課程）
研究プレゼンテーション技法Ⅱ（修士課程）

○原田 哲夫

・共通教育
課題探求実践セミナー（教育学部）
健康C（講義）
健康D（講義）
生物時計のはなし（講義）
大学基礎論（講義）
・学部
環境生理学演習Ⅰ（教育学部：演習）
環境生理学演習Ⅱ（教育学部：演習）
教科専門演習（教育学部：演習）
教科内容研究方法論（教育学部：講義）
子どもの生活と環境（教育学部：講義）
初等理科（教育学部：講義）
生活環境関係題目[環境生理学輪読Ⅰ]（教育学部：講義）
生活環境関係題目[環境生理学輪読Ⅱ]（教育学部：講義）
生活環境関係題目[生物学概論Ⅰ]（教育学部：講義）
生活環境関係題目[動物学実験]（教育学部：実験）
生活環境関係題目[臨海実習]（教育学部：実習）
生物学Ⅰ（教育学部：講義）
生物学Ⅲ（教育学部：講義）
生物学演習Ⅰ（教育学部：演習）
生物学演習Ⅱ（教育学部：演習）
生物学概論Ⅰ（教育学部：講義）
生物学関係題目（教育学部：講義）
生物学実験Ⅰ（教育学部：実験）
生物学実験Ⅱ（教育学部：実験）
生物環境学（教育学部：講義）
生物環境学演習（教育学部：演習）
生物環境学演習（教育学部：演習）
卒業論文（教育学部：演習）
卒業論文（研究）（教育学部：演習）
動物学概論Ⅱ（教育学部：講義）
理科基礎演習Ⅱ（教育学部：演習）
・大学院
課題研究（修士課程）

教育実践研究Ⅰ（理科）（修士課程）
 教育実践研究Ⅱ（理科）（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅰ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅱ（修士課程）
 教材開発演習（理科）Ⅰ（修士課程）
 教材開発演習（理科）Ⅱ（修士課程）
 教授・学習過程基礎演習（自然）（修士課程）
 黒潮圏総合科学特別研究Ⅰ（修士課程）
 黒潮圏総合科学特別研究Ⅱ（修士課程）
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 小中学校理科実験演習（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅲ（修士課程）

○平岡 雅規
 ・共通教育
 海洋生物学（講義）
 ・学部
 海洋植物学（理学部：講義）
 公開臨海実習（理学部：実験・実習）
 水産増殖学実習（農学部）
 藻類増殖学（農学部：講義）
 ・大学院
 黒潮圏総合科学特論（総合人間自然科学研究科
 黒潮圏総合科学専攻：講義）
 植物生態学特論（修士課程）
 理学ゼミナールⅡ（修士課程）
 理学実習Ⅰ（修士課程）
 理学実習Ⅱ（修士課程）
 理学特別研究（修士課程）

○堀 美菜
 ・共通教育
 魚食文化で世界を見る（講義）
 黒潮圏科学の魅力（講義）
 土佐の海の環境学Ⅰ：柏島の海から考える（講義）
 土佐の海の環境学Ⅱ：柏島の海から考える（講義）
 ・学部
 基礎演習（人文学部：演習）

○溝渕 俊二
 ・共通教育
 健康D（講義）
 ・学部
 身体のしくみ（演習）
 身体の働き（講義）
 薬の効用と看護（講義）
 看護と病態（講義）
 病態と治療（講義）
 医療管理学・医療経済学／社会医学通論／地域医療学（医学部）
 卒業研究(演)（医学部）
 大学基礎論（医学部：演習）
 総括講義 輸液・栄養（医学部・医学科：講義）
 成人看護援助論（医学部看護学科：演習）
 病態と治療（看護学科：講義）
 医療安全学（医学部・医学科：講義）
 ・大学院
 成人・老人看護学特論Ⅰ（修士課程）
 成人・老人看護学演習（修士課程）
 ウイメンズヘルス論（修士課程）
 助産診断・技術学特論Ⅰ（修士課程）

○峯 一朗
 ・共通教育
 学問基礎論（講義）
 基礎生物学実験（実験）
 情報処理（演習）
 生物学の基礎（講義）
 大学基礎論（講義）
 ・学部
 基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）
 形態形成学（理学部：講義）
 細胞生物学実験（理学部：実験）
 生物科学実験（理学部：実験）
 専門情報処理演習（理学部：演習）
 卒業研究（理学部）

卒業研究（理学部：演習）

多様性生物学（理学部：講義）

臨海実習（理学部：実習）

・大学院

細胞生理学特論（修士課程）

理学ゼミナールⅠ（修士課程）

理学ゼミナールⅡ（修士課程）

理学実習Ⅰ（修士課程）

理学実習Ⅱ（修士課程）

理学特別研究（修士課程）

○山岡 耕作

・共通教育

課題探求実践セミナー（農学部）（農学部：演習）

黒潮圏科学の魅力（全学部：講義）

土佐の海の環境学Ⅱ: 柏島から考える（講義）

・学部

海外フィールドサイエンス実習Ⅰ（農学部：実験・実習）

魚類学（農学部：講義）

実用英会話Ⅳ（農学部：講義）

卒業論文（農学部）

卒業論文演習Ⅰ（農学部：演習）

卒業論文演習Ⅱ（農学部）

熱帯環境論（農学部：講義）

・大学院

AAP 水族生態学特論（修士課程）

科学実験計画法（修士課程）

科学論文作成法（総合人間自然科学研究科（修士課程）：演習）

海外フィールドサイエンス特別実習（総合人間自然科学研究科（修士課程）：実験・実習）

研究プレゼンテーション技法（総合人間自然科学研究科（修士課程）：演習）

水族生態学演習（総合人間自然科学研究科（修士課程）：演習）

水族生態学特論（修士課程）

○吉尾 寛

・共通教育

大学基礎論（講義）

学問基礎論（講義）

課題探求実践セミナー

歴史を考える

地域変動論入門

・学部

東洋史概論Ⅱ（人文学部：講義）

外国史基礎演習（人文学部：演習）

東洋近世近代史演習Ⅲ（人文学部：演習）

東洋近世近代史演習Ⅳ（人文学部：演習）

東洋近世近代史Ⅰ（人文学部：講義）

卒業論文(専門ゼミナールⅢ・Ⅳを含む)（人文学部：演習）

・大学院

特別研究Ⅱ（修士課程）

東アジア近世歴史文化論演習Ⅰ（修士課程）

東アジア近世歴史文化論（修士課程）

○市村 高男

・共通教育

歴史を考える（講義）

・学部

教科専門演習（教育学部：演習）

教科内容研究方法論（教育学部：講義）

社会科基礎演習（教育学部：演習）

卒業論文（教育学部：演習）

日本史演習（教育学部：演習）

日本史各論（教育学部：講義）

日本史特講（教育学部：講義）

歴史学概論（教育学部：演習）

2. 学内助成の獲得

(1) 高知大学年度計画実施経費（大学改革推進経費）

課題名：分野横断型調査・研究手法習得のため

の実践型フィールド研修会

代表者：大谷和弘

配分額：500,000 円

課題名：OB・OGによるセミナー，学生との意見交換会開催

配分額：100,000 円

(2) 研究科長裁量経費

課題名：学位審査における外部審査委員への委

嘱

代表者：奥田一雄

配分額：340,000 円

課題名：黒潮圏総合科学準専攻プログラムのカリキュラムの充実

代表者：奥田一雄

配分額：200,000 円

III . 大学院生の活動

1. 学位取得者 (2011 年 9 月, 2012 年 3 月)

- [1] Keawtawee Teeyaporn : Microbiological studies on the stable shrimp aquaculture with special reference to the suppression of noxious plankton
- [2] Elvira Paul R.V. : Cytomorphogenesis in Valonia (Siphonocladales, Chlorophyceae): Ultrastructural and Biochemical Studies on Cell Regeneration and Rhizoid Differentiation
- [3] Beltrão, R. : Copepod community and its long term variations in Ariake Bay
- [4] Soeparno : Study on the ecology of juveniles of coral reef fishes using otolith increments

2. 業績

(1) 発表論文など (査読審査あり)

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

- [1] Beltrão, R., M. Monde & H. Ueda (2011) Characteristics and regional classification of the copepod community in Ariake Bay with note on comparison with three decades ago. *Journal of Oceanography*, 67: 47-58.
- [2] Teeyaporn, K., K. Fukami, P. Songsangjinda, and P. Muangyao. (2011) Isolation and characterization of Noctiluca-killing bacteria from a shrimp aquaculture pond in Thailand. *Fish. Sci.*, 77:657-664.
- [3] Elvira Paul R.V., Okuda K (2011) Cytoskeletal and ultrastructural studies on regenerating cells from the protoplasts of Valonia (Siphonocladales, Chlorophyceae). *Kuroshio Science* 5: 39-49
- [4] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2011) 水質および河川改修履歴とコウホネ属植物個体群の分布との関連性－高知市神田川における事例－. *保全生態学研究*, 16 : 169-179.
- [5] Milada Krejci, Kai Wada, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Teruki Noji, & Tetsuo Harada (2011) Effects of video game playing on the circadian typology and mental health of young Czech and Japanese children. *Psychology*, 2: 674-680
- [6] Tetsuo Harada, Ryo Kobayashi, Kai Wada, Risa Nishihara, Aska Kondo, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Milada Krejci, & Hitomi Takeuchi (2011) Effect of birth season on circadian typology appearing in Japanese young Children aged 2 to 12 years disappears in older students aged 18 to 25 years. *Chronobiology International* 28: 638-642.
- [7] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Yuhki Ohsumi, Mitsuru Nakajyo & Chihiro Katagiri (2011) Heat coma and its relationship to ocean dynamics in the oceanic sea skaters of Halobates (Heteroptera: Gerridae) inhabiting Indian and Pacific Oceans. *Journal of Thermal Biology* 36:299-305.
- [8]. Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Mitsuru Nakajyo, Takao Inoue, Takamasa Ishibashi and Chihiro Katagiri (2011) Heat coma as an indicator of resistance to environmental stress and its relationship to ocean dynamics in the seaskaters, Halobates (Heteroptera: Gerridae). *Insect Science* 18: 703-711.
- [9] カナク・サハリア、山本幸生、飯國芳明、「マイクロファイナンスによる社会関係資本の形成過程」『協同組合研究』 31(1),pp.80-89.2012.

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

- [1] Chu Ngoc KIEN, Sota TANAKA, Nguyen Van NOI, Le Thanh SON, Nguyen Minh PHUONG, Bui Thi Quynh TRANG, Michiyo NODA, Daisei UENO, and Kōzō IWASAKI (2011) Heavy Metal Concentrations in Rice (*Oryza sativa* L.) grown in a Chromite Mining Area in Vietnam. *Tropical Agriculture and Development*, 55 (4) 135-141
- [2] T. KOTEGAWA, S. TANAKA, K. SAKURAI (2011) Soil characteristics of lowland rice fields along topographical positions in an intermountain basin of northern Laos. *ペドロジスト*, 55(1), 43-54
- [3] S. TANAKA, Y. SHIBAHARA, A. TORII, K. SAKURAI (2011) Comparison of nutrient dynamics of throughfall and soil solution under bamboo (*Phyllostachys pubescens*) and Japanese cypress (*Chamaecyparis obtusa*) stands. *ペドロジスト*, 55(1), 16-29
- [4] 伊谷行・山田ちはる・渡部哲也 (2011) 1930年代におけるオオシロピンノによるムラサキイガイの利用ー京都大学瀬戸臨海実験所所蔵標本からー. *黒潮圏科学*, 4: 169-174.
- [5] Mine I, Yoshimatsu K, Kobanba A, Sekida S, Okuda K (2011) Outflow movement during gamete discharge in *Bryopsis plumosa* (Caulerpales, Chlorophyta). *Phycologia* 50 (4): 363-369
- [6] Mine I, Ozaki C, Sekida S, Okuda K (2011) Induction of gamete discharge by hypertonic treatment in the green alga *Bryopsis plumosa* (Caulerpales, Chlorophyta). *Phycological Research* 59 (1): 70-73
- [7] Mine I, Yuasa K, Uesugi M, Sekida S, Okuda K (2011) Band growth and localization of vesicle exocytosis in the red alga *Antithamnion nipponicum* (Ceramiales). *European Journal of Phycology* 46 (3): 263-270
- [8] Himeno S, Yasuoka S, Sekida S, Mine I, Matsui T, Okuda K, Takahashi MM (2011) Distribution of eelgrass, *Zostera japonica* Aschers. & Graebn., in a tidal river with reference to some environmental characteristics. *Hikobia* 16: 85-94
- [9] Tetsuo Harada, Ryo Kobayashi, Kai Wada, Risa Nishihara, Aska Kondo, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Milada Krejci, & Hitomi Takeuchi (2011) Effect of birth season on circadian typology appearing in Japanese young Children aged 2 to 12 years disappears in older students aged 18 to 25 years. *Chronobiology International* 28: 638-642.
- [10] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Yuhki Ohsumi, Mitsuru Nakajyo & Chihiro Katagiri (2011) Heat coma and its relationship to ocean dynamics in the oceanic sea skaters of *Halobates* (Heteroptera: Gerridae) inhabiting Indian and Pacific Oceans. *Journal of Thermal Biology* 36:299-305.
- [11] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Mitsuru Nakajyo, Takao Inoue, Takamasa Ishibashi and Chihiro Katagiri (2011) Heat coma as an indicator of resistance to environmental stress and its relationship to ocean dynamics in the seaskaters, *Halobates* (Heteroptera: Gerridae). *Insect Science* 18: 703-711.

(2) 発表論文など（査読審査なし）

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

- [1] 堤原健太、岩田洋輔、高橋ゆい、山中孝一、中城満、小島ふみ子、原田哲夫 中学校構内に生息する野草の観察（春期及び冬期）を導入した理科授業. 高知大学教育実践研究 25: 165-176.
- [2] 中城満. 2011. 「生命のつながり（3）受粉と結実」初等理科教育, 45: 55-57.

(3) 国際学会発表

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

【口頭発表】

- [1] Elvira Paul R.V., Sekida S, Mine I, Okuda K (2011) Effect of substratum hardness on Valonia rhizoid differentiation. Dec. 10-11, 2011, 5th international Kuroshio Symposium, Asia-Pacific Ocean Research Center, National Sun Yat-sen University, Kaohsiung, Taiwan
- [2] Nakajo, M & Kawasaki, K. (2011) Metacognition that pupils realize their changes in thought. East Asia Science Education Conference (EASE), 光州, 大韓民国, Oct. 27th, 2011.
- [3] Iiguni, Y. and Y. Yamamoto, . (2011) Land management issues in depopulated areas in Japan, The 7th Asian Society of Agricultural Economists international conference, Woman development center (Hanoi).

【ポスター発表】

- [1] Keawtawee Teeyaporn, Fukami Kimio, and Songsangjinda Putth. (2011) Improving Shrimp Survival by Noctiluca-Killing Bacteria Strain BS2. The 3rd International Conference on Sustainable Animal Agriculture for Developing Countries, Nakhon Ratchasima, Thailand, 2011年07月26-29日
- [2] Keawtawee Teeyaporn, Fukami Kimo, and Songsangjinda Putth. (2011) Influence of phytoplankton bloom on shrimp conditions. The 4th Thailand-Japan International Academic Conference, Tokyo, Japan, 2011年11月26-27日
- [3] Yamanouchi, T., Sakata, Y., Ishikawa, S. (2012) Why do endangered aquatic plants which occur frequently in acidic waters, sometimes grow in high pH waters? 5th EAFES International Congress, Ryukoku University, Shiga, March 17-21 2012.
- [4] Kai Wada, Shota Yata, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Shigekazu Higuchi, Tetsuo Harada (2011) Effects of incandescent lights exposure at night during one month intervention on sleep-wake cycle and salivary melatonin in Japanese students. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, Aug. 20-26, 2011.
- [5] Risa Nishihara, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2011) Effects of make-up, use of perfume and skin-care on circadian typology, sleep habit and mental health in Japanese university students aged 18-30yrs. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, Aug. 20-26, 2011.
- [6] Osami Akimitsu, Kai Wada, Risa Nishihara, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2011) Effects of the consumption of tyrosine and phenylalanine as precursors of catecholamine at breakfast on circadian typology and mental health in Japanese infants and university

students. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, Aug. 20-26, 2011.

- [7] Akane Kobayashi, Milada Krejci, Kai Wada, Risa Nishihara, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2011) Comparative studies on circadian typology, mental health and physiological parameters related to menstruation cycle between Czech and Japan women students. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, Aug. 20-26, 2011.
- [8] Hitomi Takeuchi, Milada Krejci, Akane Kobayashi, Kai Wada, Rie Nishihara, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Miyo Nakade, Tetsuo Harada (2011) Comparative studies between Czech and Japanese infants on circadian typology, breakfast habit and obesity. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, Aug. 20-26, 2011.
- [9] Kai Wada, Shota Yata, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Shigekazu Higuchi, Tetsuo Harada (2011) Effects of one month intervention program on meal habit, sleep-wake cycle and mental health of Japanese University sport club members. The 6th world Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011), Kyoto, JAPAN, Oct. 16-20, 2011.
- [10] Tetsuo Harada, Akane Kobayashi, Milada Krejci, Kai Wada, Rie Nishihara, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi (2011) Sleep habit, circadian typology, mental health, and TV game playing of Czech and Japanese infants aged 5-6 yrs. The 6th world Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011), Kyoto, JAPAN, Oct. 16-20, 2011.
- [11] Osami Akimitsu, Kai Wada, Risa Nishihara, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2011) Consumption effect of tyrosine and phenylalanine as precursors of catecholamine on mental health exists not at supper but at breakfast in Japanese infants. The 6th world Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011), Kyoto, JAPAN, Oct. 16-20, 2011.
- [12] Hitomi Takeuchi, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Tetsuo Harada (2011) Comparison of sleep habit in Japanese men students before, during and after science cruises. The 6th world Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011), Kyoto, JAPAN, Oct. 16-20, 2011.

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

【ポスター発表】

- [1] Takero Sekimoto, Koki Iyota, Sam Wouthuyzen, and Tetsuo Harada (2011) Tolerance to brackish and fresh water bodies as habitat in oceanic sea skaters of Halobates (Heteroptera: Gerridae). The 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry, ICCPB-Nagoya, JAPAN, May. 31~June 5, 2011.
- [2] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Koki Iyota, Takashi Shiraki, Takero Sekimoto, Yuki Osumi, Chihiro Katagiri (2011) How does weather effect the resistance to temperature change and also components of saturated/unsaturated fatty acids in the oceanic sea skaters, Halobates? The 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry, ICCPB-Nagoya, JAPAN, May. 31~June 5, 2011.

(4) 国内学会発表

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

【口頭発表】

- [1] Febriza Dwiranti, Masanori Hiraoka, Takahiro Taguchi, Mari Tominaga, Akira Tominaga (2011) Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the blood levels of glucose and triacylglycerol in prediabetic mice induced by high fat diet: Down-regulation of blood glucose in either wild type or IFN- γ KO mice. 第14回マリンバイオテクノロジー学会大会、2011年5月28日、静岡県コンベンションアーツセンター、静岡
- [2] Elvira Paul R.V.・関田諭子・奥田一雄 (2011) Dictating cell fate by light: Serial growth mode switches in a *Valonia* rhizoid. 日本植物学会第75回大会, 東京大学(駒場), 東京都, 2011年9月27日
- [3] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2011) 四万十川支流中筋川におけるオオカナダモとササバモの棲み分け現象について. 日本生態学会中国四国地区会, 香川大学, 2011年5月15日
- [4] 野地照樹, 矢田翔太, 和田快, 中出美代, 竹内日登美, 樋口重和, 原田哲夫 (2011) 生活リズムと照明に関する一介入実験~大学サッカー部を対象として~. 日本生理人類学会第64回大会, 2011年6月11~12日, 福岡
- [5] 白木隆士, 中城満, 吉井容子, 石元浩子, 原田哲夫 (2011) 新教材「海のウミアメンボと川のウミアメンボでは、どちらが高温に強い?」. 日本科学教育学会第35回年会, 2011年8月23~25日, 東京
- [6] 中城満・楠瀬弘哲・国沢亜矢・川崎謙 (2011) 思考の変遷に自ら気づく理科授業の創造.2011年度日本理科教育学会全国大会, 2011年8月20日, 松江
- [7] 三上志穂里・名山元大・中城満 (2011) 生徒の学習に対する問題意識を誘発する理科授業をめざして. 2011年度理科教育学会四国支部大会, 2011年12月10日, 松山市
- [8] 名山元大・三上志穂里・中城満 (2011) 教師の発問分析による理科授業改善のための視点を探る. 2011年度理科教育学会四国支部大会, 2011年12月10日, 松山市

【ポスター発表】

- [1] Beltrão, R., H. Ueda & M. Monde (2011) Seasonal and interannual variation of copepod community in the inner part of Ariake Bay between 2002 and 2010. 2011年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合

同大会, 9月17-18日, 高知大学, 高知

- [2] Keawtawee, T., K. Fukami & P. Songsangjinda. (2011) Influence of nutrient and harmful algae bloom on the growth of shrimp (*Penaeus monodon*), The Joint Meeting of the Japanese Association of Benthology and the Phytoplankton Society of Japan, Kochi, Japan, 2011年09月16-19日
- [3] 楠瀬雄三・村上健太郎・石川慎吾 (2011) 絶滅危惧種ハマビシの生育環境. 植生学会, 神戸大学, 2011年9月12日
- [4] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2011) 小河川において水生植物はどのような動態を示すか? 植生学会, 神戸大学, 2011年9月12日

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

【口頭発表】

- [1] 山下亜須加・田中壮太・櫻井克年・岩崎貢三: 高知県山間部における現代型焼畑創成の試みと土壌養分動態 第3報. 2年目までの土壌養分変化, 日本土壌肥料学会関西支部会, 千里, 12月9日, 2011
- [2] 荒巻朋恵, 池原実, 上田拓史: 土佐湾における懸濁態有機物と安定同位体比の季節変動. 地質学会四国支部会, 徳島大学, 2011年12月23日
- [3] 的野はる奈・関田諭子・奥田一雄: 「多核緑藻キッコウグサの細胞同士を連結させる接着細胞の誘導要因」, 日本植物学会中国四国支部第68回大会, 香川大学, 高松市 (2011) 5月15日
- [4] 関田諭子・島田真知・奥田一雄: 「黄金色藻 *Epipyxis pulchra* におけるロリカの微細構造と形態形成」, 日本植物学会第75回大会, 東京大学 (駒場), 東京都 (2011) 9月27日
- [5] 大西健作・峯一朗・安藤和人・奥田一雄: 「緑藻スジアオノリの栄養細胞の原形質運動に及ぼす細胞骨格阻害剤の影響」, 日本植物学会第75回大会, 東京大学 (駒場), 東京都 (2011) 9月28日
- [6] 関本岳朗, 大角裕貴, 井餘田航希, 白木隆士, 原田哲夫 (2011) 外洋棲ウミアメンボ類と淡水産ウミアメンボ科シマアメンボ間の塩分濃度耐性に関する比較生理学的研究. 2011年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 2011年9月16~19日, 高知市

【ポスター発表】

- [1] 加納聡子, 田中壮太, Mohd Effendi Bin Wasli, Jonathan Lat, 櫻井克年, Joseph Jawa Kendawang: マレーシア・サラワク州ビンツルにおける *Acasia mangium* 植林地の土壌学的評価, 日本土壌肥料学会関西支部会, 千里, 12月9日
- [2] 佐藤あゆみ・山田ちはる・伊谷行 (2011): ヨコヤアナジャコと共生するマゴコロガイの初期生活史. 日本動物学会中国四国地区会第62回大会, 2011年5月14-15日, 香川大学, 高松.
- [3] 佐藤あゆみ・山田ちはる・伊谷行 (2011): 飼育環境下におけるマゴコロガイ幼生の発達と成長. 2011年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 2011年9月16-19日, 高知大学, 高知.
- [4] 大角裕貴, 関本岳朗, 井餘田航希, 白木隆士, 原田哲夫 黒潮域に生息する外洋棲ウミアメンボ類の分布 (2011) 2011年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 2011年9月16~19日, 高知市

(5) その他特筆すべき事項（著書・研究費・受賞・特許申請・社会貢献・その他報告書など）

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

[1] 山ノ内崇志（2011）：平成23年度植生学会最優秀ポスター発表賞受賞，2011年9月12日

[2] Elvira Paul R.V.：平成23年度高知大学学生表彰，2012年3月

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

[1] 小林茜, Krejci, Milada, 和田快, 野地照樹, 中出美代, 竹内日登美, 原田哲夫 (2012) 女性の概日タイプ・精神衛生・生理周期関連健康度に関する総合質問紙調査～チェコ共和国と日本の比較研究～ 日本生理人類学会平成23年度研究奨励発表会, 2012年2月11日, 九州大学, 福岡 (※ 小林茜が優秀発表賞を受賞)

IV . 研究活動

1. 学術雑誌の発行

(1) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」(ISSN 1882-823X), 第5巻1号

Preface

Kazuo Okuda 1

Glossary 5

Opening Remarks

Hiyoshizo Kotsuki Hin-Kiu Mok Jovita P. Ayson
6-8

Summary Report on the 4th Joint Kuroshio Symposium

Akira Tominaga, Hin-Kiu Mok and Yoshinori
Morooka 9-16

Keynote Reports

From the Kuroshio Triangle to the Kuroshio-
Related S-Shaped Zone: Introductory Remarks
for the 4th Symposium

Yoshinori Morooka and Akira Tominaga 17-21

Effects of Natural and Socio-Economic Changes on
Coastal and Upland Ecosystems in San Miguel
Island, Albay, Philippines

Plutomeo M. Nieves and Raul G. Bradecina 23-28

Hagfish Conservation Needed in Taiwan

Kuo-Hsun Chiu and Hin-Kiu Mok 29-32

Regime Shifts in Response to Human Impacts and
Management in Ecosystem

Motomi Genkai-Kato 33-37

Articles

Cytoskeletal and Ultrastructural Studies in
Regenerating Cells from the Protoplast of
Valonia (Siphonocladate, Chlorophyceae)

Paul Rommel Elvira and Kazuo Okuda 39-49

Underwater Ambient Biological Noise in the Waters
on the West Coast of Taiwan

Hin-Kiu Mok, Szu-Ying Lim and Kai-En Tsai
51-57

Effects of Edible Algae on Immune

Responses: Algae Polysaccharides Regulate
Delayed-type Hypersensitivity and Tumor
Growth

Akira Tominaga, Teruyuki Fujii, Hiromi Okuyama,
Takahiro Taguchi, Yutaka Kusumoto and Shiro
Ono 59-65

Article on Special Topic

Soil and Vegetation Condition of Natural Forests
and Secondary Fallow Forests within Batang
Ai National Park Boundary, Sarawak,
Malaysia

Mohd Effendi Wasli, Sota Tanaka, Joseph Jawa
Kendawang, Arifin Abdu, Jonathan Lat,
Yoshinori Morooka, Shabdin Mohd Long and
Katsutoshi Sakurai 67-76

Research Notes

Management of the Nypa Mangrove as a
Mitigating Measure against Resource Over-
Utilization in Pamplona, Cagayan

Reynaldo B. Ame, Evelyn C. Ame and Jovita P.
Ayson 77-85

Razor Clam (*Solen* spp.) Fishery in Sarawak,
Malaysia

Siti Akmar Khadijah Ab. Rahim 87-94

Book Mini-Review

Genetics, Genomics and Breeding of Soybean
Paul Rommel Elvira 50

Collaboration Net News

(1) The International Collaboration Office at BUTC
Maria Corazon P. Rivero 22

(2) The Fish Health Laboratory at DA-BFAR RO2
Evelyn C. Ame 86

第4回：黒潮関連国際シンポジウムの概要

富永 明・奥田一雄・諸岡慶昇 97-103

書評

内島善兵衛著『地球温暖化とその影響 — 生命
の星と人類の明日—』和田 快 104-106

黒潮圏留学体験記

黒潮沿岸の恵みと生態系のバランスを求めて
123-130

フィリピン大学に留学して 中野恵理 107-110

ビコール大学に留学して 木原智香 111-113

国立中山大学に留学して 長濱喜和子 114-116

Appendices

Program of the Symposium 117-118

Abstracts of the Presentation 119-125

List of Participants and Staff Members 125-126

Editorial Policy and Instructions for Authors
127-128

(2) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」(ISSN
1882-823X), 第5巻2号

研究論文

タイ国のエビ養殖池における栄養塩と植物プランクトンの変動および有害プランクトンの増殖 Teeyaporn Keawtawee・深見公雄・Putth Songsangjinda・Pensri Muangyao 129-136

インドネシアにおける Mesopodopsis 属アミ類とアキアミ類の漁業の実態について Rose O.S.E. Mantiri・大塚 攻・澤本彰三 137-146

耕作放棄地における生後1年未満のヤギの放牧と除草効果 卯城 光・加藤元海 147-154

野外用自動販売機に集まる爬虫両生類と昆虫類 渡邊礼雄・加藤元海 155-159

ヒトにおける体重と体組成の変動パターンおよび体脂肪率に変化を与える要因 岡 拓矢・加藤元海 161-167

研究ノート

東日本大震災時の気象-主として仙台平野の場合 千葉 修・小林文明・金田昌樹 169-174

●キューバ特集

研究論文

キューバ・サパタ湿地における移入ヒレナマズ *Clarias gariepinus* の生態 山本 悠・Andrés M. Hurtado Consuegra・中村洋平・久保田賢・山岡耕作 175-185

研究ノート

キューバにおけるヒレナマズ *Clarias gariepinus* の食利用に関する検討 山本 悠・久保田賢・山岡耕作 187-196

サパタ湿地地区における移入ヒレナマズの利用に関する検討 久保田賢・吉富文司・Andrés M. Hurtado Consuegra・大谷和弘・中村洋平・堀 美菜・山本 悠・山岡耕作 197-209

研究レポート

研究フィールドとしてのキューバ 大谷和弘・久保田賢・山岡耕作・高橋正征 211-215

編集後記

山岡耕作 217

投稿規定

執筆要項

2. 学外助成の獲得

(1) 文部科学省特別教育研究経費

課題名：黒潮圏科学による地域社会の温暖化適応策の構築

代表者：飯國芳明

3. 学内助成の獲得

(1) 高知大学年度計画実施経費（大学改革推進経費）

課題名：黒潮圏科学の創生と共生社会の実現に向けたフィールド・ネットワーク型研究の推進

代表者：飯國芳明

採択課題：硫黄産出地としての硫黄島の発掘調査

実施者：市村高男

配分額：478,000 円

採択課題：温帯沿岸における熱帯性魚類の加入機構と産卵実態の解明

実施者：中村洋平

配分額：配分額：400,000 円

4. 部門内研究の推進制度

(1) 黒潮講

5. 各教員の研究成果

(1) 発表論文

1) 著書

- [1] 飯國芳明. 第2章「転換期を迎えた農業環境政策」. 生態調和的農業形成と環境直接支払い. (著者発行者: 青土社), 青土社, 19-47, 2011.
- [2] 飯國芳明. 「北東アジアにおける連携の基盤」 pp.24-25. 「国際化時代の農政」 pp.84-85 「食料・農業・農村基本法の成立」 pp.86-87. の執筆を担当. キーワードで読み解く現代農業と食料・環境. (著者発行者: 小池恒男、新山陽子、秋津元輝編著), 昭和堂, 24-87, 2011.
- [3] 上田拓史. 2. 多細胞動物. 日本の海産プランクトン図鑑. (著者発行者: 南條光章), 共立出版, 152-177, 2011.
- [4] 田口尚弘. PCR を用いた高度な特殊実験法; FISH. PCR 実験; なるほど Q&A. (著者発行者: 谷口武利 編集), 羊土社, 189-200, 2011.
- [5] 田中壮太. 養分動態からみた焼畑の地域比較論. 焼畑の環境学—いま焼畑とは. (著者発行者: 佐藤洋一郎監修/原田信男・鞍田崇編), 思文閣出版, 486-517, 2011.
- [6] 中村洋平. サンゴ礁の魚たち. サンゴ礁学. (著者発行者: 日本サンゴ礁学会), 東海大学出版会, 153-176, 2011.
- [7] 中村洋平. サンゴ礁魚類の生産機構と生態系サービス. 浅海域の生態系サービス. (著者発行者: 日本水産学会), 恒星社厚生閣, 93-106, 2011.
- [8] 堀美菜. Small-scale fisheries by farmers around the Tonle Sap Lake of Cambodia. Sustainable fisheries: multi-level approaches to a global problem. (著者発行者: W. W. Taylor, A. J. Lynch, and M. G. Schechter, editors), American Fisheries Society, 185-196, 2011.

2) 著書 (専攻教員分)

- [1] 石川慎吾. 三嶺山城稜線部のササ原の枯死と再生を考える. シカと日本の森林. (著者発行者: 土井二郎), 築地書館, 122-138, 2011.
- [2] 荻慎一郎. 近代日本の珊瑚漁. 珊瑚—宝石珊瑚をめぐる文化と歴史.
- [3] 片岡万理. 正木治恵、真田弘美編. 「老いを生きる」を支えることとは 老年看護学概論. (著者発行者: 10章3節 国際的視野からみた老年看護学), 南江堂, 336-340, 2011.
- [4] 田村安興. 土佐の国際化. 土佐の歴史と文化.
- [5] 原田哲夫. 第25章 幼児・児童・生徒・学生の生活習慣リズム. 体内時計の科学と産業応用. (著者発行者: 辻賢司), 株式会社シーエムシー出版, 204-217, 2011.
- [6] 吉尾寛. 序文、第二部序文、第三部台湾の鯉漁業の近代化と黒潮、結び. 海域世界の環境と文化.
- [7] 吉尾寛. 第二部第五章「橋詰益彌と王照の土佐来遊」. 臨海地域における戦争・交流・海洋政策. (著者発行者: 高知大学人文学部), リーブル出版, 165-221, 2011.
- [8] 吉尾寛. 東亜海域世界史中的海洋環境. 世界史中的東亜海域. (著者発行者: 中国・復旦大学文史研究院), 中華書局, 41-51, 2011.

3) 総説

- [1] 飯國芳明. 迫られる多面的機能論の再検討. 農業と経済, 5-1, 140-147, 2011.

4) 総説 (専攻教員分)

- [1] 市村高男. 海から見た佐田岬半島の歴史. 市村高男・黒川信義・高嶋賢二編『石造物が語る中世の佐田岬半島』(岩田書院), 107-119, 2011.
- [2] 市村高男. 中世瀬戸内海の港町と船主・問のネットワーク. 川岡勉・古賀信幸編『日本中世の西国社会 2 西国における生産と流通』(清文堂), 171-212, 2011.

5) 原著論文

- [1] 飯國芳明. コモンズ形成の原理と現代的課題. 農業経済研究、2011 年度日本経済学会論文集, 2011 年度, 219-225, 2011.
- [2] 飯國芳明. 国民合意に基づく制度設計のための論点整理. 農業経済研究, 82(4), 245-250, 2011.
- [3] 飯國芳明. 食料・農業に関する北東アジア連携の基盤とは何か. 農林業問題研究, 182, 54-59, 2011.
- [4] 市村高男. 結城城. 関東の名城を歩くー北関東編, 54-59, 2011.
- [5] 市村高男. 古代・中世の霞ヶ浦とその周辺. 河川文化, 55, 10-11, 2011.
- [6] 市村高男. 中世四国における御影石製石造物の分布と流通経路. 市村高男編『御影石製中世石造物の分布調査とその学際的研究』, 63-71, 2011.
- [7] Beltrão, R., M. Monde & H. Ueda. Characteristics and regional classification of the copepod community in Ariake Bay with note on comparison with three decades ago. Journal of Oceanography, 67, 47-58, 2011.
- [8] Sakaguchi, S.O. & H. Ueda. Morphological divergence of *Pseudodiaptomus inopinus* Burckhardt, 1913 (Copepoda: Calanoida) between the Japan Sea and Pacific coasts of western Japan. Plankton and Benthos Research, 6, 124-128, 2011.
- [9] Ueda, H., Yamaguchi, A., Saitoh, S. Sakaguchi, S.O. & Tachihara, K. Speciation of salinity-associated two size forms of *Oithona dissimilis* (Copepoda: Cyclopoida) in estuaries. Journal of Natural History, 45, 2069-2079, 2011.
- [10] akaguchi, S.O., H. Ueda, S. Ohtsuka, H.Y. Soh & Y.H. Yoon. Zoogeography of planktonic brackish-water calanoid copepods in western Japan with comparison with neighboring Korean fauna. Plankton and Benthos Research, 6, 18-25, 2011.
- [11] Hossain MM, Kawai K, Oshima S. Immunogenicity of pressure inactivated *Edwardsiella tarda* bacterin to *Anguilla japonica* (Japanese eel). Pakistan journal of biological sciences, 14(15), 755-767, 2011.
- [12] I.Nagano,S.Oshima,K.Kawai. Importance of the Gills for the Development of Psudotuberculosis at Initial Phase of Infection in Amberjack. Fish pathology, 46, 31-33, 2011.
- [13] Nagano,S.Oshima,K.Kawai. In vivo analysis on the adherence and infection route of *Photobacterium damsela* subsp. *Piscicida* in Yellowtail. Fish pathology, 46(2), 45-50, 2011.
- [14] Elvira PR, Okuda K. Cytoskeletal and ultrastructural studies on regenerating cells from the protoplasts of *Valonia* (Siphonocladales, Chlorophyceae). Kuroshio Science, 5, 39-49, 2011.
- [15] Mine I, Sekida S, Okuda K. Microtubule arrangement during the formation of new growing tip in the

- coenocytic green alga *Bryopsis plumosa* (Caulerpales, Chlorophyta). *Cytologia*, 76 (2), 129-135, 2011.
- [16] Kumagai A, Mizuno M, Kato N, Nozaki K, Togawa E, Yamanaka S, Okuda K, Saxena IM, and Amano Y. Ultrafine cellulose fibers produced by *Asaia bogorensis*, an acetic acid bacterium. *Biomacromolecules*, 12 (7), 2815-2821, 2011.
- [17] Y.Yagi, I.Kinoshita, S.Fujita, D.Aoyama, Y.Kawamura. Importance of the upper estuary as a nursery ground for fishes in Ariake Bay, Japan. *Environ.Biol.Fish.*, 91, 337-352, 2011.
- [18] Cheryl C. Launio, Teruyuki Shinbo and Yoshinori Morooka. Island villagers' willingness to work or pay for sustainability of a Marine Fishery Reserve: Case of San Miguel Island, Philippines,. *Coastal Management*, 39, 459-477, 2011.
- [19] Raul G. Bradecina, Asa Jose U. Sajise, Teruyuki Shinbo. Valuing the Beachscape Beauty of Caramoan, the Philippines: Towards Establishing A User Fee System for Sustainable Ecotourism and Coastal Resource Management. *農林業問題研究*, 47(1), 90-95, 2011.
- [20] 新保輝幸・ラウル・ギガ・ブラデシナ・諸岡慶昇. コモンズとしての海洋保護区とその持続可能性-フィリピン・ビコール地方タバコ市サンミゲル島の事例から-. *農林業問題研究*, 47(1), 84-89, 2011.
- [21] 新保輝幸・Cheryl Casiwan Launio・諸岡慶昇. フィリピン・ビコール地方サンミゲル島の海洋保護区(MPA)の経済評価－労働意思量(WTW)と支払意思額(WTP)の比較－. *農業経済研究*, 82(4), 219-229, 2011.
- [22] Mine I, Yuasa K, Uesugi M, Sekida S, Okuda K. Band growth and localization of vesicle exocytosis in the red alga *Antithamnion nipponicum* (Ceramiales). *Eur. J. Phycol.*, 46 (3), 263-270, 2011.
- [23] Himeno S., Yasuoka S., Sekida S., Mine I., Matsui T., Okuda K. and Takahashi M. M. Distribution of eelgrass, *Zostera japonica* Aschers. & Graebn., in a tidal river with reference to some environmental characteristics. *Hikobia*, 16, 85-94, 2011.
- [24] Mine I, Yoshimatsu K, Kobanba A, Sekida S, Okuda K. Outflow movement during gamete discharge in *Bryopsis plumosa* (Caulerpales, Chlorophyta). *Phycologia*, 50(4), 363-369, 2011.
- [25] Kuroda N, Naroda T, Tamura M, Taguchi T, Tominaga A, Inoue K, Shuin T, Lee GH, Hes O, Michal M. High-grade mucinous tubular and spindle cell carcinoma: comparative genomic hybridization study. *Annals of DIAGNOSTIC PATHOLOGY.*, 15, 472-475, 2011.
- [26] Balachandran VP, Cavnar MJ, Zeng S, Bamboat ZM, Ocuin LM, Obaid H, Sorenson EC, Popow R, Ariyan C, Rossi F, Besmer P, Guo T, Antonescu CR, Taguchi T, Yuan J, Wolchok JD, Allison JP, DeMatteo RP. Imatinib potentiates antitumor T cell responses in gastrointestinal stromal tumor through the inhibition of Ido. *Nature Medicine*, 17, 1094-1100, 2011.
- [27] S. TANAKA, Y. SHIBAHARA, A. TORII, K. SAKURAI. Comparison of nutrient dynamics of throughfall and soil solution under bamboo (*Phyllostachys pubescens*) and Japanese cypress (*Chamaecyparis obtusa*) stands. *ペドロジスト*, 55, 16-29, 2011.
- [28] Kiriya Sungthongwises, Masayuki Matsuoka, Kouhei Ohnishi, Sota Tanaka, Chuleemas Boonthai Iwai. Effects of crop production on diversity and efficiency of phosphate-solubilizing bacteria. *Research Reports of Kochi University*, 60, 267-275, 2011.

- [29] Chu Ngoc KIEN, Sota TANAKA, Nguyen Van NOI, Le Thanh SON, Nguyen Minh PHUONG, Bui Thi Quynh TRANG, Michiyo NODA, Daisei UENO, and Kōzō IWASAKI. Heavy Metal Concentrations in Rice (*Oryza sativa* L.) grown in a Chromite Mining Area in Vietnam. *Tropical Agriculture and Development*, 55, 135-141, 2011.
- [30] T. KOTEGAWA, S. TANAKA, K. SAKURAI. Soil characteristics of lowland rice fields along topographical positions in an intermountain basin of northern Laos. *ペドロジスト*, 55, 43-54, 2011.
- [31] Mohd Effendi Wasli, Sota Tanaka, Joseph Jawa Kendawang, Arifin Abdu, Jonathan Lat, Yoshinori Morooka, Shabdin Mohd Long, and Katsutoshi Sakurai. Soils and vegetation condition of natural forests and secondary forests within Batang Ai National Park Boundary, Sarawak, Malaysia. *Kuroshio Science*, 5, 67-76, 2011.
- [32] Akira Tominaga, Teruyuki Fujii, Hiromi Okuyama, Takahiro Taguchi, Yutaka Kusumoto, Shiro Ono. Effects of edible algae on immune responses: Algae polysaccharides regulate delayed-type hypersensitivity and tumor growth. *Kuroshio Science*, 5, 59-65, 2011.
- [33] Camilo Mora, Octavio Aburto-Oropeza, Arturo Ayala Bocos, Paula M. Ayotte, Stuart Banks, Andrew G. Bauman, Maria Beger, Sandra Bessudo, David J. Booth, Eran Brokovich, Andrew Brooks, Pascale Chabanet, Joshua Cinner, Jorge Cortés, Juan J. Cruz-Motta, Amilcar Cupul Magaña, Edward DeMartini, Graham J. Edgar, David A. Feary, Sebastian C. A. Ferse, Alan Friedlander, Kevin J. Gaston, Charlotte Gough, Nicholas A. J. Graham, Alison Green, Hector Guzman, Marah Hardt, Michel Kulbicki, Yves Letourneur, Andres López Pérez, Michel Loreau, Yossi Loya, Camilo Martinez, Ismael Mascareñas-Osorio, Tau Morove, Marc-Oliver Nadon, Yohei Nakamura, Gustavo Paredes, Nicholas Polunin, Morgan S. Pratchett, Héctor Reyes Bonilla, Fernando Rivera, Enric Sala, Stuart Sandin, German Soler, Rick Stuart-Smith, Emmanuel Tessier, Derek P. Tittensor, Mark Tupper, Paolo Usseglio, Laurent Vigliola, Laurent Wantiez, Ivor Williams, Shaun K. Wilson, Fernando A. Zapata. Global human footprint on the linkage between biodiversity and ecosystem functioning in reef fishes. *PLoS Biology*, 9, 1-1, 2011.
- [34] Kusuto Nanjo, Yohei Nakamura, Masahiro Horinouchi, Hiroyoshi Kohno, Mitsuhiro Sano. Predation rates for juvenile fishes in a mangrove estuary: a comparison of vegetated and unvegetated microhabitats by tethering experiments. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 405, 53-58, 2011.
- [35] M. Hiraoka, K. Ichihara, W. Zhu, J. Ma, S. Shimada. Culture and hybridization experiments on an *Ulva* clade including the Qingdao strain blooming in the Yellow Sea. *PLoS ONE*, 6: e19371.doi:10.1371/journal.pone.0019371, 19371-19371, 2011.
- [36] Kazuhiro Enomoto, Satoshi Ishikawa, Mina Hori, Hort Sitha, Srun Lim Song, Nao Thuok and Hisashi Kurokura. Data mining and stock assessment of fisheries resources in Tonle Sap Lake, Cambodia. *Fisheries Science*, 77, 713-722, 2011.
- [37] Ichiro Mine, Chie Ozaki, Satoko Sekida, Kazuo Okuda. Induction of gamete discharge by hypertonic treatment in the green alga *Bryopsis plumosa* (Caulerpales, Chlorophyta). *Phycological Research*, 59, 70-73, 2011.
- [38] 平田智法、小栗聡介、平田しおり、深見裕伸、中村洋平、山岡耕作. 高知県横浪半島のサンゴ群集域にみられる魚類群集の季節的变化. *魚類学雑誌*, 58, 49-64, 2011.

- [39] 富岡健太、大前信輔、阿部文彦、山岡耕作. 汀線付近転石域に出現するマダイ稚魚のなわばりと摂食生態. 黒潮圏科学, 4, 159-167, 2011.
- [40] 小栗聡介、平田智法、中村洋平、山岡耕作. 土佐湾に加入するトノサマダイ稚魚の浮遊期間. 黒潮圏科学, 4, 153-158, 2011.
- 6) 原著論文 (専攻教員分)
- [1] 山ノ内崇志・石川慎吾. 高知県前田川における水生植物のフェノロジーと被度の変動. 水草研究会誌, 96, 1-14, 2011.
- [2] 山ノ内崇志・石川慎吾. 水質および河川改修履歴とコウホネ属植物個体群の分布との関連性—高知市神田川における事例—. 保全生態学研究, 16, 169-179, 2011.
- [3] 伊谷行・山田ちはる・渡部哲也. 1930年代におけるオオシロピンノによるムラサキイガイの利用—京都大学瀬戸臨海実験所所蔵標本から—. 黒潮圏科学, 4, 169-174, 2011.
- [4] Chapman, J. W., Dumbauld, B. R., Itani, G. and Markham, J. C. An introduced Asian parasite threatens northeastern Pacific estuarine ecosystems. *Biological Invasions*, on line DOI: 10.1007/s10530-011-0151-3, 2011.
- [5] 荻慎一郎. 近代における宮崎県沖合の珊瑚漁と高知県漁民の出漁. 『臨海地域における戦争・交流・海洋政策』(高知大学人文学部「臨海地域における戦争と海洋政策の比較研究」研究班編、リーブル出版), 223-277, 2011.
- [6] 高橋美美、濱田佳代子、平瀬節子、小笠原木棉、片岡万里、高橋永子、尾原喜美子、青木早苗、池内和代、寺下憲一郎、野村晴香、杉本加代. 「問題解決能力」の概念に関する検討-看護の教育に関連した文献を用いて-. 高知大学看護学会, 5 (1), 27-35, 2011.
- [7] 青木早苗、高橋永子、池内和代、寺下憲一郎、野村晴香、杉本加代、尾原喜美子、片岡万里、濱田佳代子、高橋美美、小笠原木棉、栗原幸男、平瀬節子. 看護系大学生を対象とした「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」の作成報告. 高知大学看護学会, 5 (1), 45-51, 2011.
- [8] 蒲生啓司、須貝一貴. 唾液試料を用いた自閉症スペクトラム障害のメタボローム解析. 高知大学学術研究報告, 60, 241-252, 2011.
- [9] 田村安興. 日本財政の持続可能性に関する研究. 高知論叢, 101, 1-35, 2011.
- [10] 多賀千洋、山中孝一、竹田尚史、高橋ゆい、岡本純人、原田哲夫、赤松直. 「骨」を題材にした物理・化学分野にまたがった新教材の開発とその教育的効果の検証. 高知大学教育実践研究, 25, 177-182, 2011.
- [11] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Shinya Maihara, Ken Ito, Toshiki Tamura. Changes in life-history traits of the water strider *Aquarius paludum* in accordance with global warming. *Physiological Entomology*, 36, 309-316, 2011.
- [12] Tetsuo Harada, Ryo Kobayashi, Kai Wada, Risa Nishihara, Aska Kondo, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Milada Krejci, Hitomi Takeuchi. Effect of birth season on circadian typology appearing in Japanese young Children aged 2 to 12 years disappears in older students aged 18 to 25 years. *Chronobiology International*, 28, 638-642, 2011.
- [13] Milada Krejci, Kai Wada, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Teruki Noji, Tetsuo Harada. Effects of video

game playing on the circadian typology and mental health of young Czech and Japanese children. *Psychology*, 2, 674-680, 2011.

- [14] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Yuhki Ohsumi, Mitsuru Nakajyo, Chihiro Katagiri. Heat coma and its relationship to ocean dynamics in the oceanic sea skaters of Halobates (Heteroptera: Gerridae) inhabiting Indian and Pacific Oceans. *Journal of Thermal Biology*, 36, 299-305, 2011.
- [15] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Mitsuru Nakajyo, Takao Inoue, Takamasa Ishibashi and Chihiro Katagiri. Heat coma as an indicator of resistance to environmental stress and its relationship to ocean dynamics in the sea skaters, Halobates (Heteroptera: Gerridae). *Insect Science*, 18,, 703-711, 2011.
- [16] 原田哲夫、竹内日登美. メディアの影響と総合睡眠健康改善プログラム. *睡眠医療*, 5, 421-431, 2011.
- [17] 堤原健太、岩田洋輔、高橋ゆい、山中孝一、中城満、小島ふみ子、原田哲夫. 中学校構内に生息する野草の観察（春期及び冬期）を導入した理科授業. *高知大学教育実践研究*, 25, 165-176, 2011.
- [18] H. M. RAJESH, M. SANTOSH AND S. YOSHIKURA. The Nagercoil Charnockite: a Magnesian, Calcic to Calc-alkalic Granitoid Dehydrated during a Granulite-facies Metamorphic Event. *JOURNAL OF PETROLOGY*, 52, 375-400, 2011.

7) 書評

- [1] 中村洋平. 新刊書紹介：魚類生態学の基礎. *日本水産学会誌*, 77, 460-460, 2011.

8) 報告

- [1] 倉本秋, 脇口宏, 澤田努, 川内敦文, 家保英隆, 久保田賢, 島田雄彦. 行政として地域医療を支えるための取り組みー高知県. *JIM*, 21, 484-487, 2011.
- [2] 山岡耕作. 黒潮圏フィールドワークチーム. *黒潮圏科学*, 4, 183-187, 2011.

9) 報告（専攻教員分）

- [1] 中嶋宏心・森本梓紗・石川慎吾・坂本彰. 三嶺山域のササ原被害と再生対策. どう守る三嶺・剣山系の森と里ーシカ被害対策を考えるシンポジウム（4）資料集, 15-21, 2011.

10) その他

- [1] 飯國芳明. 迫られる多面的機能論の再検討. *農業と経済*, 5, 140-147, 2011.
- [2] 生源寺眞一、新山陽子、小田切徳美、飯國芳明、鈴木宣弘、千葉悦子、立川雅司. 食料・農業・環境をめぐる北東アジアの連携強化に向けて. *日本学術会議・提言*, 6, 1-30, 2011.
- [3] 石塚悟史. 第9回大会（佐賀）・一般講演座長報告ー産学官連携プロジェクト2ー. 特定非営利活動法人・産学連携学会 ニュースレター, 13, 7-8, 2011.
- [4] 木下泉. 平成22年度 地方の元気再生事業 四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出 アンケート調査編.

11) その他（専攻教員分）

[1] 伊谷行. こらむ：海洋における小さな共生者たち. 生物科学, 181-181, 2011.

[2] 山田ちはる・伊谷行・浅間穂高. 受賞論文「高知県浦ノ内湾における在来種オオシロピンノによる外来種ミドリイガイの利用」の紹介. *Cancer*, 1-4, 2011.

[3] 尾原喜美子、高橋永子、平瀬節子、小笠原木棉、片岡万里、高橋美美、濱田佳代子、青木早苗、池内和代、杉本加代、寺下憲一郎、野村晴香、栗原幸男. 平成 22 年度 問題解決能力測定尺度開発に関する報告書.

(2) 学会活動に関する事項

1) 学会発表

- [1] Yoshiaki Iiguni and Kenichi Ogata. Governing the commons: a Japanese revision. The 5th International symposium on Kuroshio Science, 中山大学、台湾, 2011年12月10日－2011年12月12日.
- [2] Yoshiaki Iiguni and Yukio Yamamoto. Land management issues in depopulated areas in Japan. The 7th Asian Society of Agricultural Economists international conference, ベトナム、ハノイ, 2011年10月13日－2013年10月16日.
- [3] 小野浩幸、高澤由美、渡辺裕、白澤司朗、石塚悟史、伊藤正実、内島典子、鞘師守、大塩誠二、川崎一正、川名優孝、北村寿宏、城野理佳子、塩川真澄、田口幹、丹治惣兵衛、野瀬真治、藤原貴典、森川茂弘、矢島治夫、山村正明. 学連携システム研究会 -2010年活動実績と今後-. 産学連携学会, 佐賀県, 2011年6月16日－2011年6月17日.
- [4] 吉用武史、北添英矩、石塚悟史、受田浩之、吉永卓史、伊藤桂、荒川良. 官学連携による地元農家への土着天敵昆虫普及モデルの構築. 産学連携学会関西・中四国支部, 和歌山県, 2011年12月9日.
- [5] 石塚悟史、橋詰徹. 市民参加型の地域ブランド商品直販ビジネスモデル. 産学連携学会, 佐賀県, 2011年6月16日－2011年6月17日.
- [6] Beltrão, R., H. Ueda & M. Monde. Seasonal and interannual variation of copepod community in the inner part of Ariake Bay between 2002 and 2010. 2011年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 高知, 2011年9月16日－2011年9月19日.
- [7] 坂口穂子・上田拓史. 黒潮流域の汽水性カイアシ類の動物地理 — 黒潮は汽水種にとってバリアか. 2011年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会公開シンポジウム, 高知, 2011年9月16日－2011年9月19日.
- [8] 荒巻朋恵・池原実・上田拓史. 土佐湾における懸濁態有機物と安定同位体比の季節変動. 2011年地質学会四国支部会, 徳島, 2011年12月23日.
- [9] 古澤啓喜・川合研児・今城雅之・大嶋俊一郎. コイヘルペスウイルスに異なる感受性を示す2種類のコイ培養細胞. 日本魚病学会, 長崎大学, 2011年10月2日.
- [10] 橋口健太郎・川合研児・大嶋俊一郎. 各種刺激がブリ・マダイ・ヒラメに与えるストレス. 日本魚病学会, 長崎大学, 2011年10月2日.
- [11] 永野一郎・近藤基樹・大嶋俊一郎・川合研児. 浸漬感染法によって分かるアユ細菌性冷水病菌の体表付着性の重要性. 日本魚病学会, 長崎大学, 2011年10月2日.
- [12] Reika Abe, Kazuhiro Ohtani. Medicinal plants and traditional therapy on Batan Island, the Philippines: Prospects and problems for self-medication using local herbs. 5th International Symposium on Kuroshio Science, 台中、台湾, 2011年12月9日－2011年12月13日.
- [13] 阿部玲佳、大谷和弘、諸岡慶昇. フィリピン・バタン島における薬用植物の利用によるセルフメディケーションの現況と展望. 日本島嶼学会 2011年次大会, 鹿児島県大島郡徳之島町, 2011年9月10日－2011年9月12日.
- [14] Paul Rommel Elvira・関田諭子・奥田一雄: Dictating cell fate by light: Serial growth mode switches in a *Valonia* rhizoid. 日本植物学会第75回大会, 東京大学(駒場), 東京都, 2011年9月26日－2011

年 9 月 28 日.

- [15] 関田諭子・奥田一雄. サンゴに共生する渦鞭毛藻の細胞表層微細構造. 日本藻類学会第 35 回大会, 富山大学, 富山市, 2011 年 3 月 27 日-2011 年 3 月 28 日.
- [16] 関田諭子・島田真知・奥田一雄. 黄金色藻 *Epiphyxis pulchra* におけるロリカの微細構造と形態形成. 日本植物学会第 75 回大会, 東京大学 (駒場), 東京都, 2011 年 9 月 26 日-2011 年 9 月 28 日.
- [17] 的野はる奈・関田諭子・奥田一雄. 多核緑藻キッコウグサの細胞同士を連結させる接着細胞の誘導要因. 日本植物学会中国四国支部第 68 回大会, 香川大学, 高松市, 2011 年 5 月 14 日-2011 年 5 月 15 日.
- [18] 副島美和・関田諭子・奥田一雄. 多核緑藻ホソバロニアのレンズ状細胞の形成位置を制御する機構. 日本藻類学会第 35 回大会, 富山大学, 富山市, 2011 年 3 月 27 日-2011 年 3 月 28 日.
- [19] 大西健作・峯一朗・安藤和人・奥田一雄. 緑藻スジアオノリの栄養細胞の原形質運動に及ぼす細胞骨格阻害剤の影響. 日本植物学会第 75 回大会, 東京大学 (駒場), 東京都, 2011 年 9 月 26 日-2011 年 9 月 28 日.
- [20] 竹内啓悟, 木下泉, 柴崎賀広, 河村嘉広, 八木佑太, 青山大輔, 藤田真二. 30 数年前の諫早湾本明川河口域に出現した仔稚魚. 日本魚類学会年会, 青森県, 2011 年 9 月 29 日-2011 年 10 月 2 日.
- [21] H.D.Tran, I. Kinoshita, T.T.Ta, K.Azuma. Occurrence of the ayu (*Plecoglossus altivelis*) larvae in northern Vietnam. 5th Kuroshio Symposium, 台湾省, 高雄, 2011 年 12 月 10 日-2011 年 12 月 11 日.
- [22] 指田穰, 木下泉, H.D.Tran, T.T.Thuy, 東健作. ベトナム最北 Kalong 川河口域に出現したスズキ仔稚魚. 日本魚類学会年会, 青森県, 2011 年 9 月 29 日-2011 年 10 月 2 日.
- [23] H.D.Tran, 木下泉, T.T.Thuy, 東健作. ベトナム最北カロン川におけるアユ仔魚の出現. 稚魚研究会, 愛知県, 2011 年 12 月 10 日-2011 年 12 月 11 日.
- [24] H.D.Tran, 木下泉, T.T.Thuy, 東健作. ベトナム北部におけるアユ仔魚の出現. 日本魚類学会年会, 青森県, 2011 年 9 月 29 日-2011 年 10 月 2 日.
- [25] T.T.Thuy, H.D.Tran, 木下泉, 指田穰, 東健作. ベトナム北部の河口域における仔稚魚相. 日本魚類学会年会, 青森県, 2011 年 9 月 29 日-2011 年 10 月 2 日.
- [26] 木下泉, 藤田真二, 石田晃, 竹内啓悟. 有明海, 諫早湾潮受堤防内の調整池でのエツの再生産. 日本魚類学会年会, 青森県, 2011 年 9 月 29 日-2011 年 10 月 2 日.
- [27] 木下泉, 藤田真二, 竹内啓悟. 有明海, 諫早湾潮受堤防内の調整池でのエツの再生産. 稚魚研究会, 愛知県, 2011 年 12 月 10 日-2011 年 12 月 11 日.
- [28] 竹内啓悟, 八木佑太, 青山大輔, 木下泉, 藤田真二. 有明海諫早湾における 1997 潮受堤防建設後の仔稚魚相の変遷 (2003-2011). 稚魚研究会, 愛知県, 2011 年 12 月 10 日-2011 年 12 月 11 日.
- [29] 久保田賢, 目崎拓真. 高知県大月町における造礁サンゴに共生するクレード F の褐虫藻の存在. 日本サンゴ礁学会第 14 回大会, 那覇, 2011 年 11 月 4 日-2011 年 11 月 6 日.
- [30] Shinbo, Teruyuki. Adaptation to Climate Change by Rural Community: Approach to Coral Reef Conservation and Rehabilitation in the Yoron Island, Japan. The fifth International Kuroshio Symposium, National Sun Yat-sen University, Kaohsiung, Taiwan., 2011 年 12 月 10 日-2011 年 12 月 12 日.
- [31] Bradecina, Raul G., Plutomeo M. Nieves, Teruyuki Shinbo and Yoshinori Morooka. Economic, Ecological and Institutional Impacts of Super Typhoon Reming on a Mangrove Rehabilitation Community

- in Malinao, Albay, Philippines. 7th Asian Society of Agricultural Economists(ASAE) International Conference,, Hanoi, Vietnam (Women Development Center), 2011年10月13日-2011年10月15日.
- [32] Teruyuki Shinbo, Cheryll C. Launio, Raul Giga Bradecina and Yosinori Morooka,. Valuing the Marine Protected Area of San Miguel Island in the Bicol Region of the Philippines: An Application of the Willingness to Pay and Willingness to Work Approach by Contingent Valuation Method. 7th Asian Society of Agricultural Economists(ASAE) International Conference, Hanoi, Vietnam (Women Development Center), 2011年10月13日-2011年10月15日.
- [33] Satoko Sekida. The development and its regulation of cell coverings in armored dinoflagellates. 6th Asian Pacific Phycological Forum, 韓国, 2011年10月9日-2011年10月14日.
- [34] 関田諭子, 奥田一雄. サンゴに共生する渦鞭毛藻の微細構造. 日本藻類学会第35回大会, 富山県富山市, 2011年3月26日-2011年3月28日.
- [35] Takahiro Taguchi, Eiji Takaoka, Hiroshi Sonobe, Kunihiro Akimaru, Shuji sakamoto, Taro Shuin, Masanori Daibata, Akira Tominaga. Various sites of highly amplified DNA sequences in a pleomorphic type of a new rhabdomyosarcoma cell line, HS-RMS-2, detected by comparative genomic hybridization, chromosome microdissection and PCR analysis. American Association for Cancer Research (AACR), アメリカ合衆国 (フロリダ ; オーランド) , 2011年4月2日-2011年4月6日.
- [36] Sota TANAKA. Influences of Burning Practice of Shifting Cultivation on Nutrient Dynamics under Different Climates. 国際シンポジウム Land Degradation and Pedology, 2011年度日本土壌肥料学会つくば大会, 茨城, 2011年8月8日-2011年8月10日.
- [37] 加納聡子, 田中壮太, Mohd Effendi Bin Wasli, Jonathan Lat, 櫻井克年, Joseph Jawa Kendawang. マレーシア・サラワク州ビンツルにおける *Acacia mangium* 植林地の土壌学的評価. 日本土壌肥料学会関西支部会, 大阪, 2011年12月9日.
- [38] 山下垂須加・田中壮太・櫻井克年・岩崎貢三. 高知県山間部における現代型焼畑創成の試みと土壌養分動態 第3報. 2年目までの土壌養分変化. 日本土壌肥料学会関西支部会, 大阪, 2011年12月9日.
- [39] Akira Tominaga, Yuko Konishi, Takahiro Taguchi. Establishment of a new culture model of intestinal inflammation: *Spirulina complex polysaccharides* ameliorates colon epithelial cells by inducing the production of IL-22. the 5th International Kuroshio Symposium, Taiwan, Kaohsiung, Sun Yat-sen University, 2011年12月10日-2011年12月11日.
- [40] 堀之内正博・Prasert Tongnunui・古満啓介・中村洋平・加納光樹・山口敦子・岡本研・佐野光彦. タイ国トランの海草藻場魚類の餌利用パターン. 日本水産学会, 東京, 2011年3月27日-2011年3月31日.
- [41] 南條楠土・河野裕美・堀之内正博・中村洋平・佐野光彦. マングローブの物理構造が小型魚類の種数と個体数に及ぼす影響. 日本水産学会, 2011年3月27日-2011年3月31日.
- [42] 南條楠土・河野裕美・中村洋平・堀之内正博・佐野光彦. 西表島浦内川のマングローブ水域における魚類群集の構造. 日本水産学会, 東京, 2011年3月27日-2011年3月31日.
- [43] 中村洋平・山岡耕作・神田優. 地球温暖化に伴う温帯沿岸魚類相の遷移予測- : 岩場からサンゴ群集域へ. 日本水産学会, 2011年3月27日-2011年3月31日.

- [44] 寺園裕一郎・中村洋平・井本善次・平岡雅規. 地球温暖化に伴う温帯沿岸魚類相の遷移予測 I : 温帯性海藻藻場から熱帯性海藻藻場へ. 日本水産学会, 東京, 2011 年 3 月 27 日-2011 年 3 月 31 日.
- [45] Febriza Dwiranti, Masanori Hiraoka, Takahiro Taguchi, Mari Tominaga, Akira Tominaga. Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the blood levels of glucose and triacylglycerol in prediabetic mice induced by high fat diet: Down-regulation of blood glucose in either wild type or IFN- γ KO mice. 第 14 回マリンバイオテクノロジー学会大会, 静岡県, 2011 年 5 月 28 日-2011 年 5 月 29 日.
- [46] 蜂谷潤・平岡雅規・岡村慶・八田万有美. 海洋深層水排水を利用したアワビ生産に及ぼす栄養塩と溶存酸素の影響. 第 15 回海洋深層水利用学会全国大会, 静岡県, 2011 年 11 月 17 日-2011 年 11 月 18 日.
- [47] 田井野清也・田中幸記・原口展子・平岡雅規. 高知県沿岸海域における藻場の分布状況. 日本藻類学会第 35 回大会, 富山県, 2011 年 3 月 27 日-2011 年 3 月 28 日.
- [48] 高于涵・恩田歩武・平岡雅規・永田信治・大西浩平・津田正史・柳田和道. 水熱法によるカラギーナンの糖化. 第 91 回日本化学会年会, 神奈川, 2011 年 3 月 26 日-2011 年 3 月 29 日.
- [49] 田中幸記・田井野清也・平岡雅規. 南方系ホンダワラ類が分布を拡大する高知県におけるガラモ場の群落構造. 日本藻類学会第 35 回大会, 富山県, 2011 年 3 月 27 日-2011 年 3 月 28 日.
- [50] Ichiro Mine. Coenocytic green algae as a potential indicator of coastal environment in the Kuroshio Current region. The 5th International Kuroshio Symposium, Kaohsiung, Taiwan, 2011 年 12 月 10 日-2011 年 12 月 12 日.
- [51] 峯 一朗, 奥田 一雄. 緑藻ハネモの配偶子囊の液胞内容物の組織化学的観察. 日本藻類学会第 35 回大会, 富山, 2011 年 3 月 26 日-2011 年 3 月 30 日.
- [52] Soeparno, 中村洋平, 渋谷拓朗, 山岡耕作. Relationship between pelagic larval duration and abundance of tropical fishes on temperate coasts of Japan. 日本水産学会, 長崎大学, 2011 年 9 月 27 日-2011 年 9 月 28 日.
- [53] 運天陵, 八幡暁, 神田優, 山岡耕作. 黒潮源流域における零細漁業調査: 調査ツールとしてのシーカヤックを用いた試行. 日本島嶼学会, 徳之島, 2011 年 9 月 10 日-2011 年 9 月 12 日.

2) 学会発表 (専攻教員分)

- [1] 細川雅代・平野美奈子・岸大介・山田菜美・石川慎吾. 高知県の山間地における放棄年数の異なる棚田の埋土種子集団. 日本生態学会中国四国地区会, 高松 (香川大学), 2011 年 5 月 14 日-2011 年 5 月 15 日.
- [2] 山ノ内崇志・石川慎吾. 高知県前田川における沈水植物の被度の季節変化と年変動. 土佐生物学会, 高知 (高知大学), 2011 年 12 月 11 日.
- [3] 世木田和也・石川慎吾. 高知県中部山間地の異なる地域における棚田周辺に成立する小規模草地植生の比較. 日本生態学会中国四国地区会, 高松 (香川大学), 2011 年 5 月 14 日-2011 年 5 月 15 日.
- [4] 古田観佳子・橋本恵・石川慎吾. 高知県物部川の砂礫堆における樹林化と立地環境の関連性. 植生学会, 神戸 (神戸大学), 2011 年 9 月 11 日-2011 年 9 月 13 日.

- [5] 古田観佳子・石川慎吾. 高知県物部川下流域の砂礫堆における植生変遷と立地環境の変化. 日本生態学会中国四国地区会, 高松 (香川大学), 2011年5月14日-2011年5月15日.
- [6] 石川慎吾・中嶋宏心・森本梓紗・坂本彰. 四国山地剣山系稜線部におけるニホンジカの影響によるササ草原の衰退とヤマヌカボ群落の拡大. 日本生態学会学会, 北海道, 2011年3月8日-2011年3月12日.
- [7] 中嶋宏心・森本梓紗・石川慎吾・坂本彰. 四国山地三嶺山城稜線部におけるニホンジカの食害によるササ草原の衰退とヤマヌカボを用いた植生回復. 日本生態学会中国四国地区会, 高松 (香川大学), 2011年5月14日-2011年5月15日.
- [8] 山ノ内崇志・石川慎吾. 四万十川支流中筋川におけるオオカナダモとササバモの棲み分け現象について. 日本生態学会中国四国地区会, 高松 (香川大学), 2011年5月14日-2011年5月15日.
- [9] 山ノ内崇志, 石川慎吾. 小河川において水生植物はどのような動態を示すか?. 植生学会, 神戸 (神戸大学), 2011年9月11日-2011年9月13日.
- [10] 楠瀬雄三・村上健太郎・石川慎吾. 絶滅危惧種ハマビシの生育環境. 植生学会, 神戸 (神戸大学), 2011年9月11日-2011年9月13日.
- [11] 伊谷行・久米洋. クルマエビに寄生するエビヤドリムシについて. 2011年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 高知県, 2011年9月16日-2011年9月19日.
- [12] 佐藤あゆみ・山田ちはる・伊谷行. ヨコヤアナジャコと共生するマゴコロガイの初期生活史. 日本動物学会中国四国地区会第62回大会, 香川, 2011年5月14日-2011年5月15日.
- [13] 立田穰・岩尾研二・谷口洋基・坂口勇・伊谷行. 沿岸生態系地球温暖化影響の指標としてのサンゴの白化. 地球惑星科学連合2011年大会, 千葉, 2011年5月22日-2011年5月27日.
- [14] 佐藤あゆみ・伊谷行. 高知県浦ノ内湾におけるマゴコロガイの成長. 土佐生物学会2011年度例会, 高知県, 2011年12月11日.
- [15] 伊谷行. 砂州消失問題から見える四万十川と土佐湾の生物多様性の危機. 日本生態学会第58回全国大会, 北海道, 2011年3月8日-2011年3月12日.
- [16] 佐藤あゆみ・山田ちはる・伊谷行. 飼育環境下におけるマゴコロガイ幼生の発達と成長. 2011年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 高知県, 2011年9月16日-2011年9月19日.
- [17] 宮本友里奈, 前田悠佑, 上妻光平, 大西祐子, 津野夏海, 邊見由美, 山崎梨加, 浅野真澄, 矢部喜久, 伊谷行, 道法浩孝, 蒲生啓司. 地域資源を活用した『土佐の環境教育』の実践(2). 日本理科教育学会, 島根, 2011年8月20日-2011年8月21日.
- [18] 伊谷行・三好由佳莉・久米洋・Chapman, J. 北米に移入したエビヤドリムシ *Orthione griffenis* における日米個体群の比較. 日本生態学会第58回全国大会, 北海道, 2011年3月8日-2011年3月12日.
- [19] 久米洋・伊谷行. 燧灘河原津干潟におけるマドカアナジャコヤドリムシの寄生生態. 日本甲殻類学会第49回大会, 東京, 2011年10月22日-2011年10月23日.
- [20] 荻慎一郎. 1910年代の宮崎県沖の珊瑚漁と高知県漁民の出漁. 東北大学国史談話会, 宮城県仙台市, 2011年6月11日.
- [21] 木村誠子, 片岡万里, 林昌子. 家族アセスメント用具の開発と活用に関する文献的考察. 日本看

- 護科学学会 , 高知, 2011 年 12 月 2 日 - 2011 年 12 月 3 日.
- [22] 井手訓、正木治恵、片岡万里、飯田貴映子、辻村真由子. 高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと、選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国間での捉えた方の相違から学ぶ. 日本老年看護学会, 東京, 2011 年 6 月 15 日 - 2011 年 6 月 17 日.
- [23] 大島竜午, 吉岡健一, 蒲生啓司. 高知 CST 養成プログラム初年度の取り組み - 高知 CST プログラムの基盤構築と高知 CST 養成プログラムの開発を中心に -. 科学教育学会北陸甲信越支部大会, 新潟, 2011 年 6 月 11 日.
- [24] 大島竜午, 吉岡健一, 蒲生啓司, 中野俊幸. 高知大学における理科教員養成拠点構築事業の取り組みについて. 平成 23 年度日本教育大学協会研究集会, 香川, 2011 年 10 月 15 日.
- [25] 住田卓也, 田島寛子, 蒲生啓司. 子どもの生活環境とホルムアルデヒド. 平成 23 年度室内環境学会学術大会, 静岡, 2011 年 12 月 8 日 - 2011 年 12 月 9 日.
- [26] 三村一成, 蒲生啓司. 生活環境中におけるタバコ煙成分の吸着と脱着. 日本分析化学会第 60 年会, 愛知, 2011 年 9 月 14 日 - 2011 年 9 月 16 日.
- [27] 三村一成, 蒲生啓司. 生活環境中におけるタバコ煙成分の吸着と脱着 (2) . 平成 23 年度室内環境学会学術大会, 静岡, 2011 年 12 月 8 日 - 2011 年 12 月 9 日.
- [28] 大島竜午, 吉岡健一, 蒲生啓司. 地域の中核的理科教員養成のための授業研究に関する一考察. 日本理科教育学会, 島根, 2011 年 8 月 20 日 - 2011 年 8 月 21 日.
- [29] 宮本友里奈, 前田悠佑, 上妻光平, 大西祐子, 津野夏海, 邊見由美, 山崎梨加, 浅野真澄, 矢部喜久, 伊谷 行, 道法浩孝, 蒲生啓司. 地域資源を活用した『土佐の環境教育』の実践 - . 日本理科教育学会四国支部大会, 愛知, 2011 年 12 月 10 日.
- [30] 蒲生啓司、須貝一貴. 統計解析による自閉症の唾液サンプルを用いたメタボロミクス研究. 日本分析化学会第 60 年会, 愛知, 2011 年 9 月 14 日 - 2011 年 9 月 16 日.
- [31] Hitomi Takeuchi, Milada Krejci, Akane Kobayashi, Kai Wada, Rie Nishihara, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Miyo Nakade, Tetsuo Harada. Comparative studies between Czech and Japanese infants on circadian typology, breakfast habit and obesity. XII Congress of the EBRS, Oxford, UK, 2011 年 8 月 20 日 - 2011 年 8 月 26 日.
- [32] Akane Kobayashi, Milada Krejci, Kai Wada, Risa Nishihara, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada. Comparative studies on circadian typology, mental health and physiological parameters related to menstruation cycle between Czech and Japan women students. XII Congress of the EBRS, Oxford, UK, 2011 年 8 月 20 日 - 2011 年 8 月 26 日.
- [33] Hitomi Takeuchi, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Tetsuo Harada. Comparison of sleep habit in Japanese men students before, during and after science cruises. The 6th world Congress of the World Sleep Federation, Kyoto, Japan, 2011 年 10 月 16 日 - 2011 年 10 月 20 日.
- [34] Osami Akimitsu, Kai Wada, Risa Nishihara, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada. Consumption effect of tyrosine and phenylalanine as precursors of catecholamine on mental health exists not at supper but at breakfast in Japanese infants. The 6th world Congress of the World Sleep Federation, Kyoto, Japan, 2011 年 10 月 16 日 - 2011 年 10 月 20 日.
- [35] Kai Wada, Shota Yata, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Shigekazu Higuchi,

- Tetsuo Harada. Effects of incandescent lights exposure at night during one month intervention on sleep-wake cycle and salivary melatonin in Japanese students. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, 2011年8月20日－2011年8月26日.
- [36] Risa Nishihara, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada. Effects of make-up, use of perfume and skin-care on circadian typology, sleep habit and mental health in Japanese university students aged 18-30yrs. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, 2011年8月20日－2011年8月26日.
- [37] Kai Wada, Shota Yata, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Shigekazu Higuchi, Tetsuo Harada. Effects of one month intervention program on meal habit, sleep-wake cycle and mental health of Japanese University sport club members. The 6th world Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011), Kyoto, Japan, 2011年10月16日－2011年10月20日.
- [38] Osami Akimitsu, Kai Wada, Risa Nishihara, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada. Effects of the consumption of tyrosine and phenylalanine as precursors of catecholamine at breakfast on circadian typology and mental health in Japanese infants and university students. XII Congress of the European Biological Rhythm Society, Oxford, UK, 2011年8月20日－2011年8月26日.
- [39] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Koki Iyota, Takashi Shiraki, Takero Sekimoto, Yuki Osumi, Chihiro Katagiri. How does weather effect the resistance to temperature change and also components of saturated/unsaturated fatty acids in the oceanic sea skaters, Halobates?. 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry, ICCPB-Nagoya, Japan 2011, Nagoya, Japan, 2011年5月31日－2011年6月5日.
- [40] Tetsuo Harada, Akane Kobayashi, Milada Krejci, Kai Wada, Rie Nishihara, Osami Akimitsu, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi. Sleep habit, circadian typology, mental health, and TV game playing of Czech and Japanese infants aged 5-6 yrs. The 6th world Congress of the World Sleep Federation, Kyoto, Japan, 2011年10月16日－2011年10月20日.
- [41] Takero Sekimoto, Koki Iyota, Sam Wouthuyzen, and Tetsuo Harada. Tolerance to brackish and fresh water bodies as habitat in oceanic sea skaters of Halobates (Heteroptera: Gerridae). 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry, Nagoya, JAPAN, 2011年5月31日－2011年6月5日.
- [42] 関本岳朗、井餘田航希、白木隆士、大角裕貴、原田哲夫. ウミアメンボ類の塩分濃度耐性-外洋棲個体群と内湾棲個体群の比較-. 第55回日本応用動物昆虫学会大会, 福岡県福岡市, 2011年3月27日－2011年3月29日.
- [43] 原田哲夫、大角裕貴、関本岳朗、井餘田航希、白木隆士、竹中志保、中城満、Sam Wouthuyzen、片桐千仞. 外洋棲ウミアメンボの生息密度. 第55回日本応用動物昆虫学会大会, 福岡県福岡市, 2011年3月27日－2011年3月29日.
- [44] 井餘田航希、白木隆士、大角裕貴、関本岳朗、竹中志保、古谷朋也、コスチャル ウラジミル、片桐千仞、原田哲夫. 外洋棲ウミアメンボ及び淡水産シマアメンボの高温耐性及び過冷却点. 第55回日本応用動物昆虫学会大会, 福岡県福岡市, 2011年3月27日－2011年3月29日.
- [45] 大角裕貴、井餘田航希、白木隆士、関本岳朗、原田哲夫. 外洋棲ウミアメンボ生息密度に影響を

- 及ぼす環境因子について. 第 55 回日本応用動物昆虫学会大会, 福岡県福岡市, 2011 年 3 月 27 日 - 2011 年 3 月 29 日.
- [46] 関本岳朗、大角裕貴、井餘田航希、白木隆士、原田哲夫. 外洋棲ウミアメンボ類と淡水産ウミアメンボ科シマアメンボ間の塩分濃度耐性に関する比較生理学的研究. 2011 年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 高知市, 2011 年 9 月 16 日 - 2011 年 9 月 19 日.
- [47] 大角裕貴、関本岳朗、井餘田航希、白木隆士、原田哲夫. 黒潮域に生息する外洋棲ウミアメンボ類の分布. 2011 年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 高知市, 2011 年 9 月 16 日 - 2011 年 9 月 19 日.
- [48] 原田哲夫、竹内日登美. 子どもの睡眠健康、精神衛生、環境因子、肥満の関係. 第 18 会日本時間生物学会学術大会 シンポジウム S7 「生活リズムと健康の疫学」, 愛知県名古屋市, 2011 年 11 月 24 日 - 2011 年 11 月 25 日.
- [49] 原田哲夫. 質問紙研究と介入研究を基礎にした、子ども総合睡眠健康改善プログラム. 第 29 回日本生理心理学会大会, 高知市, 2011 年 5 月 21 日 - 2011 年 5 月 22 日.
- [50] 白木隆士、中城満、吉井容子、石元浩子、原田哲夫. 新教材「海のウミアメンボと川のウミアメンボでは、どちらが高温に強い?」. 日本科学教育学会第 35 回年会, 東京, 2011 年 8 月 23 日 - 2011 年 8 月 25 日.
- [51] 野地照樹、矢田翔太、和田快、中出美代、竹内日登美、樋口重和、原田哲夫. 生活リズムと照明に関する一介入実験 -大学サッカー部を対象として-. 日本生理人類学会第 64 回大会, 福岡県福岡市, 2011 年 6 月 11 日 - 2011 年 6 月 12 日.
- [52] 白木隆士、古谷朋也、井餘田航希、大角裕貴、土井一史、原田哲夫. 地球温暖化によって高知産アメンボは越冬前後の分散したのか. 第 55 回日本応用動物昆虫学会大会, 福岡県福岡市, 2011 年 3 月 27 日 - 2011 年 3 月 29 日.
- [53] 古谷朋也、白木隆士、井餘田航希、大角裕貴、土井一史、原田哲夫. 地球温暖化により高知産アメンボは夏休眠を選択するのか. 第 55 回日本応用動物昆虫学会大会, 福岡県福岡市, 2011 年 3 月 27 日 - 2011 年 3 月 29 日.
- [54] 原田哲夫、大角裕貴、関本岳朗、井餘田航希、白木隆士、竹中志保、中城満、Sam Wouthuyzen、片桐千仞. 熱帯太平洋、熱帯インド用及びインドネシア領海の各海域に生息する外洋棲ウミアメンボの生息密度. ブルーアース'11, 東京都品川区, 2011 年 3 月 7 日 - 2011 年 3 月 8 日.
- [55] 溝渕俊二、笹岡千穂、宮本美緒、山脇京子、渡部嘉哉. NADPH oxidase KO マウスを用いた β -グルカン誘導 $M\phi$ の細胞傷害能における ROS の関与. 第 49 回日本癌治療学会, 名古屋, 2011 年 10 月 27 日 - 2011 年 10 月 29 日.
- [56] 溝渕俊二、笹岡千穂、渡部嘉哉、笹栗志朗. ソフィ β -グルカン経口摂取による腹腔マクロファージ活性化の解析. 第 111 回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2011 年 5 月 26 日 - 2011 年 5 月 28 日.
- [57] 溝渕俊二、笹岡千穂、宮本美緒、渡部嘉哉、藤田竜、宮原五彦、小松郁子、田中肇. 担がん患者に対するソフィ β -グルカン経口摂取による NK 活性への影響. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011 年 7 月 13 日 - 2011 年 7 月 15 日.
- [58] 笹岡千穂、田中肇、小松郁子、藤田竜、宮原五彦、伊與木美保、宮本美緒、北村亜希子、渡部嘉

哉、溝渕俊二. 担がん患者に対するソフィβ-グルカン経口摂取による免疫賦活効果の検討. 第14回日本病態栄養学会, 横浜, 2011年1月15日-2011年1月16日.

- [59] 松井一貴・吉倉紳一・西戸裕嗣・鹿山雅裕. 斜長石のカソードルミネッセンス像に記録されたマグマ溜まりプロセス-小豆島・田ノ浦火成複合岩体の例-. 日本地質学会, 水戸, 2011年9月9日-2011年9月11日.

3) 学会主催等

- [1] 飯國芳明. The reform of Swiss agricultural policy. 主催. 九州大学東京オフィス, 2012年3月19日.
[2] 飯國芳明. The landscape of Swiss direct payment. 共催. 農林水産政策研究所, 2012年3月12日.
[3] 上田拓史. 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会. 主催. 高知大学, 2011年9月16日-2011年9月19日.
[4] 富永明. 第5回黒潮圏科学国際シンポジウム. 共催. 台湾・高雄市、国立中山大学, 2011年12月10日-2011年12月11日.

4) 学会主催等（専攻教員分）

- [1] 伊谷行. 2011年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会. 主催. 高知県, 2011年9月16日-2011年9月19日.
[2] 伊谷行. 日本ベントス学会主催震災緊急シンポジウム「津波と地震とベントス-大攪乱のインパクト」. 主催. 高知県, 2011年9月19日.
[3] 伊谷行. 市民公開シンポジウム「黒潮流域の生物学：プランクトン・ベントス研究者からの新発見」. 主催. 高知県, 2011年9月19日.
[4] 片岡万里. 交流集会. 共催. 東京, 2011年6月17日.
[5] 蒲生啓司. 高知 CST 養成プログラム キックオフ・シンポジウム. 主催. 高知, 2011年7月16日.
[6] 原田哲夫. 第3回高知大学・京都大学生理生態学セミナー（夏の学校）. 主催. リゾートホテル海辺の果樹園（高知県夜須）, 2011年9月1日-2011年9月2日.
[7] 原田哲夫. 第14回青少年の為の科学の祭典高知大会. 主催. 高知大学北体育館（主催：青少年の為の科学の祭典高知大会実行委員会、原田哲夫実行委員長）, 2011年12月4日.

(3) その他の研究活動に関する事項

1) 受賞（専攻教員分）

- [1] 伊谷行. 高知大学研究顕彰制度 平成 22 年度若手教員研究優秀賞. 海洋共生生物学：海洋生物の共生関係についての進化過程解明. 2011 年 2 月.
- [2] 原田哲夫. 日本生理人類学会研究奨励発表会・優秀発表賞 女性の概日タイプ・精神衛生・生理周期関連健康度に関する総合質問紙調査－チェコ共和国と日本の比較研究. 小林茜、Krejci, Milada、和田快、野地照樹、中出美代、竹内日登美、原田哲夫. 高知大学、University of South Bohemia、東海学園大学. 2012 年 2 月.

2) 特許

- [1] JFE メカニカル株式会社. 溝田久和・相原恒雄・平岡雅規. 海藻類の多段式連続養殖装

置. 未取得. 2011 年 3 月.

3) 特許（専攻教員分）

- [1] 国立大学法人高知大学、馬路村農業協同組合. 溝渕俊二、渡部嘉哉、東谷望史. 抗アレルギー剤. 未取得. 2011 年 10 月.
- [2] 高知大学法人高知大学、株式会社高南メディカル. 溝渕俊二、渡部嘉哉、宮原五彦、宮本美緒、岡田悟志. セロトニン生合成促進剤. 未取得. 2012 年 2 月.
- [3] 国立大学法人高知大学、高知県、有限会社川上食品、株式会社高南メディカル、ひまわり乳業株式会社、株式会社ソフィ、藤田竜. 高知大学（発明者：6 名）受田浩之、島村智子、竹内啓晃、杉浦哲朗、溝渕俊二、吾妻 健. ジンゲロール含有組成物. 未取得. 2011 年 12 月.

(4) 研究費採択状況

1) 科学研究費補助金

〈研究代表者〉

- [1] 市村 高男：西日本における中世石造物の成立と地域的展開. 基盤研究 (B), 2012年-2014年, 1460万円.
- [2] 木下 泉：バカルガジカ類の著しい適応放散を繁殖生態・初期生活史・遺伝子の多様性から探る. 基盤研究(B)海外, 2009年-2012年, 884万円.
- [3] 久保田 賢：すり身加工技術導入による人為的移入魚種の持続的利用と生態系保全の基盤形成. 基盤研究 (B), 2009年-2011年, 1380万円.
- [4] 新保 輝幸：サンゴの海の生態リスク管理：住民・研究者・自治体の共同メカニズムの構築. 基盤 B, 2009年-2011年, 440万円.
- [5] 関田 諭子：サンゴ-褐虫藻共生系における白化および共生メカニズムの微細形態学的解析による解明. 若手研究 B, 2011年-2012年, 338万円.
- [6] 中村 洋平：成育場の劣化が熱帯域魚類資源の加入成功に及ぼす影響. 若手B, 2009年-2011年, 403万円.
- [7] 峯 一朗：黒潮流域の新たな環境指標種：囊(のう)状緑藻による潮間帯劣化の進行評価と越境対策. 基盤研究 (B), 2011年-2013年, 545万円.

〈研究分担者〉

- [1] 飯國 芳明：ポリバレント化する農業・農村経済学とその総合化. 基盤研究(B), 2010年-2012年, 25万円.
- [2] 飯國 芳明：臨界自然資本の識別による環境リスク管理. 特定領域研究, 2006年-2011年, 50万円.
- [3] 飯國 芳明：次世代農業経営革新のための

人材育成システム構築に関する学際的国際共同研究. 基盤研究(A), 2011年-2013年, 70万円.

- [4] 飯國 芳明：サンゴの海の生態リスク管理:住民・研究者・自治体の協働メカニズムの構築. 基盤研究(B), 2009年-2011年, 10万円.
- [5] 大島 俊一郎：細菌の外膜タンパク質GAPDHによる広範な感染症の予防. 基盤B, 2011年-2013年, 150万円.
- [6] 大谷 和弘：サンゴの海の生態リスク管理：住民・研究者・自治体の共同メカニズムの構築. 基盤研究(B), 2009年-2011年, 120万円.
- [7] 大谷 和弘：すり身加工技術導入による人為的移入魚種の持続的利用と生態系保全の基盤形成. 基盤研究(B)海外学術調査, 2009年-2011年, 300万円.
- [8] 奥田 一雄：細胞構造とゲノム情報で探る褐藻類多細胞進化の鍵. 基盤研究 A, 2010年-2012年, 165万円.
- [9] 奥田 一雄：黒潮流域の新たな環境指標種：囊(のう)状緑藻による潮間帯劣化の進行評価と越境対策. 基盤研究 B, 2011年-2013年, 5万円.
- [10] 久保田 賢：サンゴの海の生態リスク管理：住民・研究者・自治体の協働メカニズムの構築. 基盤研究 (B), 2009年-2011年, 90万円.
- [11] 新保 輝幸：臨界自然資本の識別による環境リスク管理. 特定領域研究「持続可能な発展の重層的ガバナンス」, 2006年-2011年, 50万円.
- [12] 田中 壮太：ハノイの廃棄物処分場周辺農耕地土壌における水銀汚染の実態把握とその対策. 基盤研究 C, 2011年-2013年, 45万円.
- [13] 中村 洋平：すり身加工技術導入による

人為的移入漁業の持続的利用と生態系保全へのチャレンジ. 海外基盤 B, 2009 年—2011 年, 40 万円.

- [14] 中村 洋平: 魚類の生息場としてのマングローブ水域の機能と重要性の解明: 野外実験的アプローチ. 基盤研究 B, 2009 年—2011 年, 156 万円.
- [15] 平岡 雅規: 海洋バイオマス利用による CO2 削減およびバイオ燃料化に関する研究. 基盤 B, 2010 年—2012 年, 33 万円.

2) 科学研究費補助金 (専攻教員分)

〈研究代表者〉

- [1] 荻 慎一郎: 秋田藩領北部諸鉱山の研究. 基盤研究 (C), 2009 年—2012 年, 78 万円.
- [2] 原田 哲夫: 子どもの睡眠健康増進のための生理人類学的介入研究. 基盤 B, 2010 年—2012 年, 1820 万円.
- [3] 溝渕 俊二: 黒酵母 β -グルカンを用いた老人性乾皮症治療剤の開発. 挑戦的萌芽研究, 2011 年—2012 年, 172 万円.
- [4] 吉尾 寛: 山本憲関係資料に関する史的考察. 基盤研究 (B), 2011 年—2015 年, 900 万円.

〈研究分担者〉

- [1] 伊谷 行: 教員の質保証に応える地域資源を活用した『土佐の環境教育』カリキュラム開発. 基盤 B, 2011 年—2013 年, 80 万円.
- [2] 片岡 万里: 自立高齢者生活支援のためのインテリジェント歩行車の開発. 基盤 B, 2009 年—2011 年, 9 万円.
- [3] 蒲生 啓司: 教員の質保障に応える地域資源を活用した『土佐の環境教育』カリキュラム開発. 基盤研究 B, 2011 年—2013 年, 100 万円.
- [4] 蒲生 啓司: 抗社会行動を伴う発達障害の分子機構を通じた診断・治療法開発戦略の

創成. 基盤研究 C, 2011 年—2012 年, 30 万円.

- [5] 蒲生 啓司: 異文化理解マインドの創出と相互国際教育実習研究. 挑戦的萌芽研究, 2011 年—2013 年, 30 万円.

3) 共同研究

〈代表者〉

- [1] 市村 高男: 中世鬼界島の総合的研究. 財団法人三菱財団, 2010 年—2012 年, 190 万円.
- [2] 大島 俊一郎: コイの貪食細胞の活性評価. 自然免疫応用技研株式会社, 2011 年—2012 年, 10 万円.
- [3] 大島 俊一郎: イリドウイルス感染症の予防に予防に関する研究. 中部飼料株式会社, 2010 年—2012 年, 0 円
- [4] 大島 俊一郎: 抗酸菌感染症に対する治療法の開発. 共立製薬株式会社, 2011 年—2013 年, 0 円
- [5] 大島 俊一郎: 滑走細菌症に対する治療法の開発. 第一製網、ダイセル, 2006 年—2013 年, 0 円
- [6] 木下 泉: 土佐湾における魚類再生産機構に関する研究. 西日本科学技術研究所, 2005 年—1 年, 165 万円.
- [7] 木下 泉: 有明海湾奥部における稚仔魚の分布調査. 佐賀県有明海水産振興センター, 2002 年—2011 年, 979 万円.
- [8] 久保田 賢: 地域医療・在宅介護等に関する ICT 利活用の適用可能性に関する研究. パシフィックソフトウェア株式会社, 2010 年—2014 年, 29 万円.
- [9] 久保田 賢: ICT 技術による救急医療情報連携システムの構築に関するシステム研究. 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社, 2010 年—2010 年, 10 万円.
- [10] 富永 明: 未利用生物資源からの血糖値

および脂肪制御作用を持つ物質の探索. 富士産業株式会社, 2010年-2012年, 100万円.

- [11] 平岡 雅規: 海洋深層水スジアオノリ・タンク養殖の研究. A社, 2011年-2012年, 80万円.
- [12] 平岡 雅規: 海洋深層水を利用したアワビと海藻の増養殖に関する研究. 室戸市, 2011年-2011年, 145万円.
- [13] 平岡 雅規: 人工藻礁設置による褐藻類繁茂促進に関する研究. B社, 2011年-2013年, 100万円.
- [14] 平岡 雅規: 海藻類の胞子の採取、育苗、成体育成. C社, 2011年-2011年, 11万円.
- [15] 堀 美菜: 黒潮圏科学による地域社会の温暖化適応策の構築. 2010年-2011年, 30万円.

〈分担者〉

- [1] 石塚 悟史: 食品および食品成分が体内放射性物質の排出に与える効果の確認. 赤穂化成株式会社, 2011年-2012年, 0円
- [2] 堀 美菜: 東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上. 総合地球環境学研究所, 2011年-2011年, 50万円.

4) 共同研究 (専攻教員分)

〈代表者〉

- [1] 蒲生 啓司: 生薬の有効成分に関する分析化学的研究. 牧野植物園, 2009年-2011年, 20万円.

〈分担者〉

- [1] 伊谷 行: 外来性イガイ類の代謝量調査. 電力中央研究所, 2010年-2011年, 0円
- [2] 片岡 万里: 特別養護老人ホーム職員における家族支援の実際-パス解析による構造化の試み. ユニバーサル財団, 2011年-2012

年, 2万円.

5) 受託研究・奨学寄附金など

〈代表者〉

- [1] 上田 拓史: 日本の沿岸動物プランクトン 学術研究助成金. 新日本環境調査株式会社, 2011年-2011年, 40万円.
- [2] 木下 泉: 天然アユを守るための取り組み. 四万十市, 2008年-1年, 950万円.
- [3] 田中 壮太: 環境保全型アブラヤシ栽培技術への提言-収穫残渣の農地施用に関する土壌生態学的評価. 2011年度住友財団環境助成, 2011年-2012年, 200万円.
- [4] 平岡 雅規: 天然スジアオノリの生産量アップの実証実験事業. 四万十市, 2011年-2011年, 152万円.
- [5] 平岡 雅規: 塗料を塗った魚網の海藻付着抑制効果の検証. D社, 2011年-2011年, 6万円.
- [6] 平岡 雅規: 寄附金. E社, 2011年-2011年, 10万円.
- [7] 平岡 雅規: 海草成長促進効果に関する研究助成. F社, 2011年-2011年, 15万円.
- [8] 山岡 耕作: 黒潮源流域におけるシーカヤックを用いた調査試行. 三井物産環境基金, 2011年-2012年, 440万円.

〈分担者〉

- [1] 大島 俊一郎: ミカン果皮抽出物のマダイイリドウイルス病に対する予防効果. 愛媛財団, 2009年-2011年, 175万円.
- [2] 奥田 一雄: 宝石サンゴの持続的利用のための資源管理技術の開発. 水産庁, 2010年-2012年, 71万円.
- [3] 中村 洋平: 熱帯多島海域における沿岸生態系の多重環境変動適応策 (平成23年度). 科学技術振興機構, 2010年-2014年, 78万円.

6) 受託研究・奨学寄附金など（専攻教員分）

万円

〈代表者〉

- [1] 石川 慎吾：河川と国道周辺における外来種に関する調査. (株) ティーネットジャパン, 2010年-2011年, 17万円.
- [2] 蒲生 啓司：基礎力向上を重視した地域の理科教育力向上をめざす高知C S Tプログラム. 科学技術振興機構, 2010年-2013年, 2945万円.
- [3] 田村 安興：高知県地域産業研究. 四銀キャピタルリサーチ, 2011年-2011年, 100万円.
- [4] 溝渕 俊二：機能性素材を用いた食品の開発. 株式会社高南メディカル, 2011年-2011年, 38万円.
- [5] 溝渕 俊二：柚子の機能性についての研究. 馬路村農業協同組合, 2009年-2011年, 663万円.
- [6] 溝渕 俊二：ユズ種子成分の経口接種による機能性評価. 馬路村農業協同組合, 2011年-2011年, 360万円.
- [7] 溝渕 俊二：柚子種子オイルの機能に関する研究. 株式会社 三和化学研究所, 2011年-2011年, 18万円.
- [8] 溝渕 俊二：ソフィβ-グルカンの高齢者並びに疾病患者に対する有用性の検討. 株式会社 ソフィ, 2011年-2011年, 720万円.
- [9] 溝渕 俊二：セロトニン生合成促進剤に関する研究. 株式会社 高南メディカル, 2011年-2011年, 112万円.
- [10] 溝渕 俊二：機能性素材を用いた食品の開発. 医療法人岡村会 岡村病院, 2011年-2011年, 9万円.

7) 高知大学年度計画実施経費

- [1] 黒潮圏科学に基づく共生社会の実現に向けた理論と実践に関する研究推進（プロジェクトリーダー：富永 明），2010年，189.9

8) 学長裁量経費

- [1] 石塚 悟史：高知県における食品の臨床試験体制の構築. 2011年, 0円
- [2] 田中 壮太：植物健康基礎医学拠点. 2011-2016年, 92万円.
- [3] 平岡 雅規：海藻資源の高度有効利用を実現する育成・抽出・変換プロセスの開発. 2011年, 41万円.

9) 学長裁量経費（専攻教員分）

- [1] 荻 慎一郎：高知をめぐる戦争と交流の史的研究. 2010年, 0円
- [2] 蒲生 啓司：『高知C S T養成プログラム』を推進基盤とする理科教員養成の新展開. 2011年, 150万円.
- [3] 蒲生 啓司：海藻資源の高度有効利用を実現する育成・抽出・変換プロセスの開発. 2011年, 25万円.
- [4] 原田 哲夫：“早寝、早起き、朝ごはん健康増進”を実現する幼児から大学生までの生活リズム改善のための総合睡眠健康改善教育プログラムの啓蒙効果の検証及び改訂 . 2011年, 160万円.

10) 部局長裁量経費（専攻教員分）

- [1] 石川 慎吾：変動する環境と生物多様性：その過去と現在. 2011年, 32万円.

11) その他の研究

〈代表者〉

- [1] 飯國 芳明：黒潮圏科学による地域社会の温暖化適応策の構築. 概算特別プロジェクト, 2009年-2011年, 20万円.
- [2] 市村 高男：硫黄産出地としての硫黄島の発掘調査?黒潮トライアングル研究の発展を目指して-. 黒潮圏科学創生資金, 2011

年, 47.8 万円.

- [3] 中村 洋平: 養殖池による水質汚染が沿岸魚類の成長に及ぼす影響. 東京大学大気海洋研究所旅費付き外来研究員, 2011 年, 8 万円.
- [4] 中村 洋平: 温帯沿岸における熱帯性魚類の加入機構と産卵実態の解明. 新・黒潮講, 2011 年, 40 万円.

〈分担者〉

- [1] 石塚 悟史: 菌床シイタケの品質に影響する糖類の含量を増大させる生産法の開発. (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)探索タイプ, 2011 年, 0 円
 - [2] 石塚 悟史: 飛翔性微小昆虫を捕食する土着天敵メスグロハナレメイエバエの大量増殖法の開発. (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)探索タイプ, 2011 年-2012 年, 0 円
 - [3] 石塚 悟史: 光センシングを利用した食品偽装防止技術に関する研究. (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)探索タイプ, 2011 年-2012 年, 0 円
 - [4] 石塚 悟史: 紫外線誘導性皮膚癌モデルマウスの創薬におけるプラットフォームとしての応用. (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)探索タイプ, 2011 年-2012 年, 0 円
 - [5] 中村 洋平: 黒潮圏科学に基く温暖化適応策の構築. 高知大学運営費交付金特別経費, 2009 年-2011 年, 430 万円.
 - [6] 平岡 雅規: 黒潮圏科学に基づく温暖化適応策の構築. 特別教育研究経費, 2009 年-2011 年, 130 万円.
- 12) その他の研究 (専攻教員分)
〈代表者〉
- [1] 伊谷 行: 瀬戸内海におけるユムシの巣穴共生生物相の解明. 財団法人水産無脊椎動物研究所 2010 年度個別研究助成, 2010 年, 70 万円.
 - [2] 蒲生 啓司: 高知県の教育課題に応えた「わかりやすく魅力ある授業」と「児童生徒のコミュニケーション力育成」を目指した教育コラボレーション研究プロジェクト. 平成 22 年度特別教育研究経費, 2009 年-2010 年, 4518 万円.
 - [3] 蒲生 啓司: 基礎力向上を重視した地域の理科教育力向上をめざす高知 C S T プログラム. 日本科学技術振興機構平成 22 年度理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー)養成拠点構築事業, 2010 年-2013 年, 2960 万円.
 - [4] 蒲生 啓司: 高知県全域をフィールドとした総合研究に基づく教育・医療・福祉間で一貫した実効性のある発達障害支援システムの構築. 平成 22 年度特別教育研究経費, 2009 年-2010 年, 223 万円.
 - [5] 原田 哲夫: “各学校オリジナル自然図鑑”や“科学研究の成果を基にした新教材を用いた分かりやすい授業プログラムの開発研究. 平成 21-22 年度文部科学省特別経費, 2009 年-2010 年, 30 万円.
- 〈分担者〉
- [1] 蒲生 啓司: システム糖鎖生物学教育研究拠点. 平成 22 年度特別教育研究経費, 2009 年-2010 年, 180 万円.

V. 国際・地域貢献

1. 公開講座・委員会活動等

(1) 公開講座・講演会・講習会・研修会等

○飯國 芳明

・公開講座

中山間地域の持続性. 公開講座, 土佐アカデミー, 土佐山農業公社, 2012年2月15日

T P Pと今後の日本経済. 公開講座, 高知市江の口川コミュニティセンター, 江の口川コミュニティセンター, 2012年1月28日

・研修会

第13回高知県農業担い手サミット. 研修会, 高知県農業会議, 高知県土佐町, 2011年11月28日

○石川 慎吾

・公開講座

鏡川自然塾. 公開講座, 環境の杜高知・土佐生物学会・NPO 四国自然史科学研究センター, 高知大学, 2011年10月13日

・研修会

若者ECO応援隊合宿研修. 研修会, 高知県教育委員会, 剣山系三嶺山城および高知県青少年センター, 2011年8月3日

○伊谷 行

・その他

青少年のための科学の祭典高知大会. 科学の祭典高知大会実行委員会, 高知大学体育館, 2011年12月4日

○上田 拓史

プランクトン学. 高知大学, 総合研究センター海洋生物研究教育施設, 2011年8月15日

○蒲生 啓司

附属小学校夏休み自由研究親子相談会. 高知大学教育学部理科, 附属小学校, 2011年7月20日

理科授業および実験. 高知大学教育学部支援実習,

大豊町中学校, 2011年9月1日-2012年1月31日

○木下 泉

・教育講演

アユのはなし. 講演, 四万十市, 四万十市中央公民館, 2011年4月27日

○久保田 賢

・研修会

介護食講座. 研修会, RKC調理師学校, RKC調理師学校, 2011年8月27日

介護食講座. 研修会, RKC調理師学校, RKC調理師学校, 2011年10月26日

管理栄養士国家試験対策講座. 研修会, 高知学園短期大学, 高知学園短期大学, 2011年10月2日

○新保 輝幸

・その他

ヨロンの海サンゴ礁再生協議会 講演会. ヨロンの海サンゴ礁再生協議会・高知大学・与論町, 与論町地域福祉センター, 2011年7月28日

サトウキビ栽培に関する懇談会ーサトウキビ増収のための施肥とかんがいを考えるー. ヨロンの海サンゴ礁再生協議会・高知大学・与論町, 与論町地域福祉センター, 2011年12月16日

第7回柏島大学. 高知大学・NPO 法人黒潮実感センター, 柏島公民館, 2011年8月25日

ヨロンの海サンゴ礁再生協議会 講演会. ヨロンの海サンゴ礁再生協議会・高知大学・与論町, 与論町地域福祉センター, 2011年7月28日

○田中 壮太

・教育講演

高知ものべ川有機農業セミナー新たなビジネスは農業だ. 講演, 高知ものべ川有機農業推進協議会, 香美農林合同庁舎, 2011年11月11日

土佐山アカデミー講義. 講演, 土佐山アカデミー,

土佐山アカデミー, 2012年3月7日

○富永 明

・その他

高校生の研究者体験. 高知大学, 高知大学医学部分子細胞生物学教室, 2011年8月3日-2011年8月5日

○原田 哲夫

・教育講演

「早寝、早起き、朝ごはんが3つのお得!」. 講演, 高知県各地の小学校、PTA、高知大学サッカー一部主催サッカー教室保護者会、日本体育協会高知支部など、高知県各地の小学校、ろう学校など, 2011年4月26日-2012年2月19日

・その他

人間生物学. 高知医療学院, 高知医療学院, 2011年4月5日-2011年5月10日

生物学. 独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校, 高知病院附属看護学校, 2011年4月15日-2011年11月18日

○平岡 雅規

・教育講演

第8回バイオマス変換触媒セミナー. 講演, 触媒学会(バイオマス変換触媒研究会), 高知大学理学部附属水熱化学実験所, 2011年7月11日

松崎町の川ノリについて. 講演, 松崎花とロマンの里研究会事務局, 松崎町環境改善センター, 2011年2月2日

JICA 研修. 講演, JICA, 海洋生物研究教育施設, 2011年7月20日-2011年8月7日

・検討会等

The 8th Japan-China Workshop on "Technology for water pollution prevention". 検討会, JST & NSFC, 京都ロイヤルホテル, 2011年11月14日-2011年11月16日

○溝渕 俊二

・その他

日本静脈経腸栄養学会、栄養サポートチーム専門療法士認定規則、実地修練認定教育臨地実習. 高知大学医学部附属病院栄養サポートチーム, 高知大学医学部附属病院, 2011年7月7日-2011年7月14日

日本静脈経腸栄養学会、栄養サポートチーム専門療法士認定規則、実地修練認定教育臨地実習. 高知大学医学部附属病院栄養サポートチーム, 高知大学医学部附属病院, 2012年2月14日-2012年3月29日

○山岡 耕作

・教育講演

Sea Kayak expedition in Luzon. 講演, ビコール大学タバコ校, ビコール大学タバコ校, 2011年12月19日

・検討会等

シーカヤックによる黒潮源流域調査. 検討会, フィリピン共和国海洋水産資源局リージョン2, カガヤン州ツゲガラオ, 2011年12月15日

四国会議. 検討会, 四国総研, 三翠園ホテル, 2011年1月16日

○吉倉 紳一

・公開講座

第70期高知市民の大学「最近注目されている高知の地質」. 公開講座, 高知市文化事業団, カルポート, 2011年10月25日

第70期高知市民の大学「最近注目されている高知の地質」. 公開講座, 高知市文化事業団, カルポート, 2011年12月20日

第70期高知市民の大学「最近注目されている高知の地質」. 公開講座, 高知市文化事業団, カルポート, 2012年1月24日

室戸ジオパーク巡検. 公開講座, 高知市文化事業団, 室戸ジオパーク, 2011年11月20日

・研修会

高知地学研究会平成 23 年度香川県巡検. 研修会, 高知地学研究会, 香川県, 2011 年 10 月 15 日 - 2011 年 10 月 16 日

室戸ジオパークウォーキング. 研修会, 高知県ウォーキング協会・高知県, 室戸ジオパーク, 2011 年 10 月 30 日

放送大学高知学習センター「室戸ジオパーク後援会と観察会」。研修会, 放送大学高知学習センター, 室戸ジオパーク, 2011 年 11 月 26 日 - 2011 年 11 月 27 日

「室戸ジオパークで大地誕生の謎を探る」。研修会, 高知県高坂学園生涯老人大学, 高知市東部健康福祉センター, 2012 年 2 月 17 日

地質学の基礎と石鎚山系の地質. 研修会, 西条自然の学校, 西条市, 2012 年 3 月 5 日

・その他

高知県立小津高等学校 SSH 科学巡検体験ゼミ. 高知県立小津高等学校・高知県教育委員会, 愛媛県, 2011 年 8 月 19 日 - 2011 年 8 月 20 日

○石塚 悟史

・研修会

高知の農山漁村を元気にする産学官民連携の事例. 研修会, 土佐市地域雇用創出推進協議会, グランディール, 2011 年 12 月 3 日

・検討会等

高知を元気にする陰の仕掛け人 - 地域コーディネータについて -. 検討会, キック会, ホテル高砂, 2011 年 11 月 16 日

・その他

Stat3 阻害剤経皮投与による紫外線誘発性皮膚癌の進展抑制効果. BioJapan 組織委員会, パシフィコ横浜, 2011 年 10 月 5 日 - 2011 年 10 月 7 日

○市村 高男

巨大地震と小田原城下町. 学校法人新名学園旭丘高校, 神奈川県小田原市旭丘高校, 2011 年 5 月 21

日

石造物から見た中世の佐田岬半島. 愛媛県伊方町立町見郷土館, 伊方町立町見郷土館, 2011 年 9 月 23 日

中世宇都宮氏の成立と展開. 栃木県立文書館, 栃木県庁講堂, 2011 年 11 月 26 日.

(2) 他大学講義等

○石川 慎吾

環境生物学実験, 高知女子大学生生活科学部

○伊谷 行

面接授業(科目名: 渚の生態学), 高知大学

○片岡 万里

見学実習, 高知大学医学部看護学科老年看護学教室、リハビリテーション部、整形外科病棟などの視察

○蒲生 啓司

自然科学概論, 高知医療学院

○木下 泉

公開臨海実習, 海洋生物研究教育施設

○久保田 賢

公衆栄養学概論, 高知学園短期大学

○田中 壮太

AAP サマーセミナー, 大洲青少年センター

○原田 哲夫

生体リズムと健康, 京都大学共通教育

○平岡 雅規

臨海実習, 関西学院大学理工学部

○峯 一朗

生物学, 生殖生物学, 臨海実習, 高知学園短期大学医療衛生学科, 高知県立大学環境理学科, 高知大学理学部

○吉倉 紳一

面接授業「大地の生い立ちを知ろう」, 放送大学高知学習センター

○市村 高男

大学院課題研究, 放送大学高知学習センター

(3) 他機関との連携

○伊谷 行

高知県教員採用試験問題の調査研究, 2011年7月-2011年8月

○大島 俊一郎

化学物質を用いた病害発生阻止に関する事業. ダイセル, 2007年4月-1年

食品素材の動物生産への応用. 太陽化学, 2007年4月-1年

動物生産における妨害予防ならびに治療に関する研究. 共立製薬株式会社, 2007年4月-1年

水産物の生産に関する研究. 日本水産株式会社, 2000年9月-1年

水産物の生産に関する研究. タナック, 2011年3月-1年

○平岡 雅規

須崎市の藻場造成計画(維持・管理計画含む)について学識経験者としての検討. G社, 2011年4月-2012年3月

プラスチック容器を利用した海藻培養の技術移転および技術相談. H社, 2011年4月-2011年6月

川ノリ陸上栽培の技術相談・指導. 松崎花とロマンの里研究会, 2011年5月-2011年11月

海苔生産についての技術相談. I社, 2011年6月

海苔生産についての技術相談. J社, 2011年6月
新規海藻商品化のための海藻大量培養法の指導.

K社, 2011年4月-2012年3月

深層水を利用した海藻培養の指導. 高知県漁業協同組合高岡支所, 2011年4月-2012年3月

海中で浮遊させる海藻培養法の技術相談. 独立行政法人水産総合研究センター水産工学研究所, 2011年6月-2012年3月

今後の海洋生物研究の政策相談. 文部科学省海洋地球課, 2011年6月

海藻培養水槽開発の技術相談. L社, 2011年4月-2012年3月

海藻培養についての技術相談. 独立行政法人交通安全環境研究所, 2011年6月

中国象山湾におけるアオノリ生産について技術移転、技術相談・指導. X社, 2011年4月-2012年3月

東北震災被災地の海藻ヒトエグサ養殖の復興支援. 福島県水産試験場, 2011年10月

有明海の高苔網に発生したアオノリの種名相談およびアオノリの種同定. 佐賀県有明水産振興センター, 2011年11月

離島振興のための海藻養殖技術移転についての相談. 八幡浜市, 2011年11月

BLUE OCEAN PROJECT ~畜産系未利用バイオマスのメタン発酵と生成ガス中のCO₂を利用した高速海洋バイオマス培養プロセスの検証~事業における技術相談・指導. M社, 2011年4月-2012年3月

生理活性剤の海藻成長に対する効果について調査相談. N社, 2011年12月-2012年3月

前年度から海藻陸上栽培についての技術相談を受け、2011年度後半から共同研究契約に至った。S社, 2011年4月-2012年3月

二酸化炭素固定のための海藻培養実験についての技術相談. T社, 2011年11月-2012年3月

藻場調査に関する技術相談・指導. 財団法人黒潮生物研究所, 2011年4月-2012年3月

二酸化炭素固定のための海藻培養装置開発に関する技術相談. U社, 2011年4月-2012年3月
開発した浮遊担体に海藻を繁茂させるための技術相談. V社, 2011年4月-2012年3月
海藻の培養についての技術相談. 阿南高専, 2011年5月
二酸化炭素固定のための海藻養殖技術の技術移転、相談・指導. 中部大学工学部, 2011年4月-2012年3月
海藻による水質浄化についての技術移転、技術相談・指導. 名古屋大学エコトピア科学研究所, 2011年10月-2012年3月
東北マリンサイエンス拠点形成事業「海藻バイオエタノールを基軸とした藻体完全利用技術の創出」の研究協力. 東北大学大学院農学研究科, 2011年12月-2012年3月
海藻ヒトエグサ、スジアオノリ生産についての技術相談・指導. 四万十川下流漁協, 2011年4月-2012年3月
バイオ燃料生産を目指した海藻の選定および培養法についての技術相談. 東京大学農学生命科学研究科, 2011年10月-2012年3月

○堀 美菜

申請プロジェクト「Assessing economic and welfare values of fish in the Lower Mekong Basin (4年間総計1億円)」の審査員を行った。オーストラリア外務通産省 国際農業研究センター (Australian Centre for International Agricultural Research) プロジェクト審査

○溝渕 俊二

「家畜の免疫に関する研究」を研究題目で共同研究契約を締結し、高知大学医学部において、NK活性測定方法などの研究指導を行った。愛媛県農林水産業研究所畜産研究センター（「家畜の免疫に関する研究」を研究題目とした研究指導）, 2010年10月-2012年3月

土佐市、地元企業3社と高知大学の共同研究契約を締結し、「ソフィβ-グルカンの高齢者並びに疾病患者に対する有用性の検討」のテーマで、土佐市民病院との共同臨床試験を行っている。土佐市、株式会社ヘルシースマイル、株式会社高南メディカル、株式会社ソフィ, 2009年6月-2012年3月

○石塚 悟史

技術相談、事業計画、販路開拓、資金調達、契約調整など. 株式会社H, 2011年4月-2012年3月
健康サービス産業への新規参入に関する相談と販路開拓など. 株式会社KM, 2011年4月-2012年3月
研究シーズと企業ニーズのマッチング、技術相談など. 四国銀行、高知銀行, 2011年4月-2012年3月
健康福祉事業への協力、契約調整など. 株式会社S, 2011年4月-2012年3月
新規事業打ち合わせ、商品企画、技術相談など. AK株式会社, 2011年4月-2012年3月
竹炭の高度利用と事業化、養殖事業についての相談など. 株式会社TN, 2011年4月-2012年3月
研究シーズと企業ニーズのマッチング、展示会出展、技術相談など. (財)横浜企業経営支援財団, 2011年4月-2012年3月
地域特産品の開発とカタログ販売支援など. KK協会, 2011年4月-2012年3月
地域特産品の生産及び販路拡大支援など. GS組合, 2011年4月-2012年3月
スタッキングカートの開発、契約、販路拡大の支援. IZ株式会社, 2011年4月-2012年3月
機能水の農業利用に関する技術相談. TM株式会社, 2011年10月-2012年3月
食品の臨床評価に関する支援. HN株式会社, 2011年4月-2012年3月
農作物Uの栽培マニュアル作成及び商品開発の支援など. 有限会社SS, 2012年2月-2012年3月
産学官民連携プロジェクトの企画・立案・推進、

民間等との共同研究及び受託研究の支援、学内及び他大学との共同研究及び連携、民間等からの科学・技術相談、地域社会の諸活動に対する専門的支援等。高知県内外の企業、団体、自治体等（200以上）、2011年4月－2012年3月

(4) 委員会・審議会活動

1) 国内委員会活動

○飯國 芳明

日本学会会議。連携会員、2011年10月－2013年9月

農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター「複合型船物資源モニタリングを活用した広域連携周年放牧技術の開発と実証。評価委員、2010年4月－2013年3月

高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金審査委員。委員、2011年5月－2012年3月

(社)農業開発研修センター。参与、2010年5月－2012年5月

農林水産政策研究書「我が国農業分野における地球温暖化対策の評価手法の開発等に関する研究」に関する評価委員会。委員、2010年11月－2014年3月

環境活動支援センター業務外部評価委員会。委員長、2011年5月－2013年5月

○石川 慎吾

横瀬川ダム環境モニタリング委員会。委員、2009年12月－2011年11月

高知県文化環境アドバイザー。アドバイザー、2010年2月－2012年1月

高知県環境審議会。自然環境部会部会長、2011年1月－2013年1月

波介川河口導流事業環境調査委員会。委員、2011年2月－2012年3月

四万十アドバイザー会議。委員、2011年4月－2014年3月

高知県環境影響評価技術審査会。委員、2011年7

月－2014年6月

河川・溪流環境アドバイザー。委員、2011年5月－2012年3月

自然環境基礎調査植生調査植生図作成業務にかかわる中国四国地区検討委員会。委員、2011年9月－2012年3月

平成23年度自然環境保全基礎調査植生調査に係る技術専門部会（統一凡例検討部会）。検討委員、2011年10月－2012年3月

河川水辺の国勢調査『河川版・ダム湖版』スクリーニング委員会。委員、2012年1月－2012年3月
牧野植物園外部評価委員会。委員、2012年2月－2012年4月

野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備連絡会議。委員、2012年2月－2014年3月

○伊谷 行

四万十川河口環境検討会委員。委員、2011年4月－2012年3月

「科学の祭典」高知大会実行委員会。事務局長、2011年4月－2012年3月

日本ベントス学会干潟RDB編集委員会。委員、2011年4月－2012年3月

日本ベントス学会和文誌編集委員会。委員、2011年8月－2012年3月

河川・溪流環境アドバイザー等会議。委員（アドバイザー）、2011年9月

○上田 拓史

日本プランクトン学会評議員会。評議員、2009年4月－2013年3月

○荻 慎一郎

高知県立歴史民俗資料館 資料収集委員会。委員長、2011年4月－2012年3月

『土佐國群書類従拾遺』編集委員会。委員、2011年4月－2012年3月

○蒲生 啓司

大豊町中学校評価委員会. 評価委員, 2010年4月
-2012年3月

○木下 泉

四万十アドバイザー会議. 魚類生態学に関する学
識経験者, 2007年4月-年月

高知県野生動植物専門家会議 汽水・淡水魚分科
会. 魚類に関する専門的アドバイス, 2007年4
月-年月

中筋川流域委員会. 委員, 2007年4月-年月

横瀬川環境委員会. 委員, 2007年4月-年月

四国地方ダム等管理フォローアップ委員会. 依属
委員, 2007年4月-年月

河川・溪流環境アドバイザー. 依属委員, 2007年4
月-年月

四万十エコ・リバー研究会/自然との共生21. 委員,
2009年2月-年月

四万十川河口環境検討委員会. 委員, 2008年12月
-年月

○久保田 賢

高知県高齢者保健福祉推進委員会. 委員, 2007年
2月-2012年2月

高知県食の安全・安心推進審議会. 副会長, 2009
年2月-2012年2月

○新保 輝幸

高知海区漁業調整委員会. 知事選任委員(学識経
験委員), 2008年9月-2012年8月

竜串自然再生協議会. 委員(区分: 専門家)、およ
び実施計画作成部会委員, 2008年3月-年月

ヨロンの海サンゴ礁再生協議会. 委員, 2010年3
月-年月

○田村 安興

高知県卸売市場審議会. 会長, 2011年1月-2011
年12月

高知市文化振興事業団評議員. 委員, 2011年1月
-2011年12月

高知市中央卸売市場検討委員会. 委員, 2011年1
月-2011年12月

○平岡 雅規

藻類CO₂固定プラント研究会. 委員, 2011年6月
-2012年3月

○溝渕 俊二

財団法人 防府消化器病センター 評議委員会. 評
議委員, 2008年4月-2012年3月

○山岡 耕作

高知海区漁業調整委員会. 委員, 2007年4月-
2012年3月

高知県漁業基本対策審議会. 会長, 2005年4月-
2012年2月

黒潮生物研究所評議委員会. 評議員, 2003年4月
-2012年3月

黒潮実感センター理事会. 副理事長, 2002年4月
-2012年3月

高知県文化環境アドバイザー. 委員, 2005年4月
-2012年3月

発電所生態系予測手法検討委員会. 委員, 2009年
4月-2012年3月

○吉倉 紳一

高知市民の大学運営委員会. 副委員長, 2011年4
月-2012年3月

高知地学研究会. 顧問, 2011年4月-2012年3月
高知市総合調査. コーディネーター, 2011年4月
-2012年3月

Gondwana国際研究連合. 副会長, 2011年4月-
2012年3月

NPO法人「地質情報整備活用機構」四国支部. 支部
長, 2011年4月-2012年3月

室戸ジオパーク推進協議会. アドバイザー, 2011

年 4 月－2010 年 3 月

高知県立小津高等学校 SSH 運営指導委員会. 委員,
2011 年 5 月－2010 年 3 月

○石塚 悟史

高知エコデザイン協議会. 幹事, 2011 年 4 月－
2012 年 3 月

一般社団法人日本アクアスペース. 副理事長,
2006 年 11 月－2012 年 3 月

(財) 高知県観光コンベンション協会 誘致・受
入推進委員会. 委員, 2007 年 6 月－2012 年 3 月

四万十町行政改革推進委員会. 会長, 2006 年 8 月
－2012 年 12 月

総務省. 地域情報化アドバイザー, 2007 年 12 月－
2012 年 3 月

四万十町バイオマスタウン推進協議会. 委員長,
2011 年 3 月－2012 年 3 月

高知県公営企業局 小水力発電先行プロジェクト
委託業務公募型プロポーザル審査委員会. 審査
委員, 2011 年 5 月－2011 年 6 月

高知県公営企業局 小水力発電市町村支援事業
委託業務公募型プロポーザル審査委員会. 審査委
員, 2011 年 5 月－2011 年 6 月

産学連携学会. 理事, 2011 年 7 月－2013 年 6 月

安芸市雇用創造推進協議会. 総合アドバイザー,
2011 年 7 月－2012 年 3 月

高知県公営企業局 再生可能エネルギー利活用
事業審査委員会. 審査委員, 2011 年 8 月－2011 年
11 月

NPO 法人食と健康を学ぶ会. 理事, 2011 年 8 月－
2013 年 7 月

高知エコ産業大賞審査委員会. 実行委員, 2011 年 10
月－2012 年 3 月

四万十町行政評価審査委員会. 会長, 2012 年 1 月
－2014 年 1 月

○市村 高男

筑紫氏勝尾城跡遺跡保存整備委員会. 委員, 2010

年 6 月－2012 年 5 月

2) 国際委員会活動

○田村 安興

高知市スラバヤ市友好協会. 副会長, 2011 年 3 月
－2011 年 12 月

(5) 国際交流・国際セミナー

1) 協定校等との学術交流

○石川 慎吾

相手校を訪問し, 学生交流と学術交流を行った。
付き添い教員。インドネシア共和国タンジュンブ
ラ大学, 2012 年 3 月

○大谷 和弘

海外フィールドサイエンス実習学生の受入れ. 受
入れ教員, インドネシア・タンジュンブラ大学、
マレーシア・サラワク大学、フィリピン・ビコー
ル大学、タイ・コンケン大学、タイ・カセサート
大学, 2011 年 10 月

JASSO ショートステイプログラムに基づく学生
の受入れ. 受入れ教員, インドネシア・タンジュ
ンブラ大学, 2011 年 10 月－2011 年 11 月

○荻 慎一郎

東国大学(韓国)からの教員・学生を迎えての東
アジア国際教育セミナーでの講演。「江戸時代の
経済発展と都市・交通－高知城下町と室戸の掘り
込み港湾をめぐって－」の題目で講演した。東国
大学, 2012 年 1 月

○奥田 一雄

国際交流協定の更新の依頼と表敬. 国際交流協定
の責任部局長, フィリピン大学, 2011 年 9 月

○木下 泉

アユに関する共同研究. ハノイ教育大学, 2012年3月

シンポジウム参加・発表. 中山大学, 2011年12月
ワークショップ開催. 研究指導, マレーシア・サラワク大学, 2011年8月

○新保 輝幸

共同現地調査・研究打ち合わせ. 調査・研究、現地協定校との調査関係の協議・交渉, フィリピン・ビコール大学, 2008年9月-年月

○田中 壮太

JSPS 若手研究者招聘支援事業. 運営, 招聘, 派遣, 東南アジア各協定校, 2011年7月-2011年12月
学生受け入れ. 受け入れ, プトラ大学, 2011年6月
共同研究, 表敬訪問. 共同研究, 表敬訪問, プトラ大学, サラワク大学, 2011年9月
海外実習, 表敬訪問. 引率, 表敬訪問, プトラ大学, カセサート大学, 2011年8月
学生受け入れ. 受け入れ, タンジュンプラ大学, 2011年11月
教員・学生受け入れ. 受け入れ, プトラ大学, 2012年1月
共同研究・表敬訪問. 共同研究・表敬訪問, プトラ大学, 2012年2月-2012年3月

○田村 安興

ブラビジャヤ大学を訪問し研究交流を実施. 主指導, インドネシア国立ブラビジャヤ大学, 2011年3月-2011年12月

○富永 明

台湾・高雄市・国立中山大学とのシンポジウム企画. シンポジウム企画立案高知大学側責任者, 台湾・高雄市・国立中山大学, 2011年3月-2011年12月

○堀 美菜

両大学の共催による国際シンポジウムの開催など. カンボジア国立工科大学, 2011年9月-2012年9月

○峯 一朗

4th Lecture Series. 講演, Bicol University Tabaco Campus, 2011年8月

○山岡 耕作

コウイカ類の左右性に関する研究. 役職なし, フィリピン大学, 2001年4月-2012年3月
黒潮源流域漁業調査協力. 代表, ビコール大学, 2010年4月-2012年3月

2) その他の国際学術交流

○飯國 芳明

短期研究者招聘. 招聘者代表, 次世代農業経営革新のための人材育成システム構築に関する学際的国際共同研究, 2012年3月

○伊谷 行

JICA 平成23年度「海域における水産資源の管理及び培養コース」. 講師, JICA, 2011年7月-2011年10月

○大谷 和弘

JSPS 若手研究者交流事業に基づく短期研究者の招聘. 受入れ教員, 農学部, 2011年10月
インドネシア産や供養植物に関する共同研究. 日本側代表, 農学部/黒潮圏科学部門, 2011年4月-2012年3月

○奥田 一雄

博士論文審査における外部審査委員の委嘱. 論文審査委員会の主査, フィリピン大学, 2012年1月

○蒲生 啓司

グラスゴー大学教育学部において、本学が実施している「CST養成プログラム」および「土佐の環境教育」について紹介すると共に、情報交換を行った。理科および環境教育の現状と課題について双方の認識を深め、カリキュラム等での共同開発に向けた検討を進める。、グラスゴー大学（英国）、2011年9月

○木下 泉

魚類初期生活史研究ワークショップ。彼大学での学術基礎研究の指導・水深、サラワク・マレーシア大学、2011年8月

バイカル湖カジカ類の研究。初期生活史、ロシア科学アカデミー、バイカル博物館、2011年7月
ベトナムにおけるアユの生活史研究。アユの生態学、ハノイ教育大学、2012年3月

○新保 輝幸

共同の調査研究。共同研究、ビコール大学・パルティド州立大学（フィリピン）、2005年3月

○田中 壮太

JSPS 若手研究者交流支援事業。運営、招聘、派遣、高知大農学部、黒潮圏総合科学専攻、東南アジア各大学、2011年7月-2011年12月

国際交流活動支援。マレーシア・プトラ大学からの研究者招聘、高知大農学部、プトラ大学林学部、農学部、2012年1月

マレーシア・プトラ大学表敬訪問。表敬訪問、プトラ大学、2011年9月

マレーシア・サラワク大学表敬訪問。表敬訪問、サラワク大学、2011年9月

マレーシアプトラ大学表敬訪問。表敬訪問、プトラ大学、2012年2月-2012年3月

○中村 洋平

短期研究者の招聘。共同研究者、フランス国立高

等研究院、2011年9月

共同研究。共同研究者、タイ国ラジャマンガーラ工科大学、2011年12月

共同研究。共同研究者、キューバ・Flora y Fauna、2011年3月

○平岡 雅規

中国の大学とJSPが募集する「日本-中国研究交流環境保全および環境低負荷型社会の構築のための科学技術」に応募するための共同申請書の作成。日本側作成代表者、Jinan 大学生命科学技術学院、2011年11月-2012年3月

○山岡 耕作

高知大学学生18名の国際フィールドサイエンス実習（タイ、マレーシア）。引率責任者、タイ国カセサート大学、マレーシア共和国プトラ大学、2011年8月

3) 在外研究

○蒲生 啓司

英国。グラスゴー大学教育学部、研究課題：英国環境教育機関との連携による国際的学術交流の推進、2011年9月

○木下 泉

ロシア。ロシア科学アカデミー動物学研究所、バイカル湖における淡水カジカ類の生物多様性と適応放散・種文化、2011年7月

マレーシア。マレーシア・サラワク大学、マングローブ・サンゴ礁水域での魚類再生産に関する研究、2011年8月

ベトナム。ハノイ教育大学、ベトナム北部におけるアユの生態学、2012年3月

○田中 壮太

マレーシア。プトラ大学、サラワク大学、熱帯土壌研究、2011年9月

マレーシア. プトラ大学, 熱帯土壌研究, 2012年2月-2012年3月

○平岡 雅規

中国. 上海海洋大学, アオノリの養殖と利用についての研究, 2011年10月

○中村 洋平

JICA 専門家派遣. 魚類調査方法の指導, フィリピン, 2011年9月

JICA 専門家派遣. 魚類調査方法の指導, フィリピン, 2012年3月

JICA 専門家派遣. 国際会議, フィリピン, 2011年6月

4) 国際セミナー等

○奥田 一雄

黒潮圏セミナー"Biosafety, Biodiversity and Sanitary and Phyto-Sanitary Research in UP Los Baños". 主催責任者・司会, 黒潮圏総合科学専攻, 2012年1月

○新保 輝幸

The 5th International Symposium on Kuroshio Science. シンポジウムでの報告など, Asia-Pacific Ocean Research Center, National Sun Yat-Sen University and Kochi University,, 2011年12月-2011年12月

○田中 壮太

ワークショップ「アジア・フィールドサイエンス・ネットワークに関する国際ワークショップ II I - 東南アジアの環境・食料問題解決に向けたフィールド科学先端研究者育成プログラム」. 企画, 農学部, 黒潮圏総合科学専攻, 2011年10月

○富永 明

第5回黒潮圏科学国際シンポジウムを開催して、黒潮圏の大学、サラワク大学、タンジュンプラ大

学との共同研究などの発表および教育の場を提供した。高知大学のオーガナイザー責任者, 台湾・国立中山大学、高知大学, 2011年12月-2011年12月

○中村 洋平

Kusoshio Science. 発表者, 台湾国立中山大学, 2011年12月-2011年12月

第1回国際会議「Coastal ecosystems conservation and adaptive management」. 共同講演者, JICA、フィリピン大学, 2011年6月-2011年6月

○吉尾 寛

黒潮研と中山大学・ビコール大学の合同シンポ. 報告者, 黒潮研と中山大学・ビコール大学の合同主催, 2011年12月-2011年12月

(6) 留学生・研究者受け入れ

○石川 慎吾

1カ月のショートステイプログラム「黒潮圏温帯域における陸域生態系理解のためのフィールドワーク」を作成し, 野外調査を中心に留学生の指導を行った。インドネシア共和国, 2011年10月-2011年11月

○上田 拓史

国費留学生受入. ブラジル, 2008年4月-2011年9月

○大谷 和弘

協定校からの学生および研究者の受入れ. インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム, 2011年6月-2011年11月

○奥田 一雄

短期留学生に対する実験指導. インドネシア, 2011年9月

○木下 泉
博士課程3回生. ベトナム, 2011年4月-2012年3月

研究生. ベトナム, 2011年4月-2011年9月
海域における水産資源の管理及び培養コース. インドネシア, ナミビア, ペルー, セントクリストファーネービス, スリランカ, トルコ, 2011年7月-2011年10月

○新保 輝幸
日本学術振興会の RONPAKU プログラムにより現地の大学教員を招聘して受け入れ、学位取得に向けて研究指導を行う。2012年3月、博士(学術)を取得。 . フィリピン, 2008年3月-年月

○田中 壮太
JSPS 若手研究者招聘事業. タイ, マレーシア, インドネシア, フィリピン, シンガポール, 2011年8月-2011年10月
研究者受け入れ. マレーシア, 2012年1月

○富永 明
私費留学生1名を黒潮圏総合科学専攻の学生として受け入れている。 . インドネシア, 2009年10月-2012年9月

○中村 洋平
留学生の受入. フィリピン, 2011年8月

○原田 哲夫
留学生. チェコ共和国(Czech Republic), 2011年5月-2011年8月

○平岡 雅規
海藻の培養技術、その基礎および応用に関する指導. マレーシア, 2011年5月-2011年8月

○山岡 耕作

インドネシアからの博士課程インドネシア国費留学生を1名受け入れ、学位を取得させた。 . インドネシア, 2009年4月-2012年3月

○吉尾 寛
河南大学・教員1名. 中国, 2012年3月

(7) 管理運営

○飯國 芳明

1_全学

総合科学系・黒潮圏総合科学部門委員
基金事業検討ワーキング委員

2_学部等

高知大学倫理・人権・苦情処理委員会委員
高知大学大学院黒潮圏科学部門「黒潮圏科学」編集委員会委員

総合科学系・黒潮圏科学部門学系長・部門長
総合研究センター海洋部門海洋流域分野長委員
長

総合研究センター海洋部門副部門長委員
人事委員会委員

○伊谷 行

1_全学

総合研究センター海洋部門管理運営委員会委員
黒潮圏総合科学準専攻専門委員会委員

C S T養成プログラム開発・実施部会委員委員

C S T広報部会委員委員

生命・環境人材育成プログラム準備委員会委員

2_学部等

支援実習委員会委員

教務委員(黒潮圏博士課程)委員

○上田 拓史

総合研究センター運営戦略委員会委員

総合研究センター海洋部門会議委員

○大島 俊一郎

1_全学

評価本部委員

科学研究費等競争的資金獲得のためのタスクフ
ォース委員

国際・地域連携推進委員会委員

知的財産専門委員会委員

利益相反マネジメント委員会委員

安全衛生委員会委員

国際人材養成特別教育プログラム委員会委員

グリーンサイエンス人材育成特別教育プログラ
ム委員会委員

2_学部等

就職担当委員

企画・広報委員会委員長

○大谷 和弘

1_全学

修士課程教務委員会委員

黒潮圏準専攻専門委員会委員長

共通教育自然科学分科会委員

全学教育機構学士課程運営会議委員

大学院入学試験委員会委員

学生支援委員会委員

学生寮検討WG委員

留学生委員会委員

2_学部等

教務委員会委員長

農学部カリキュラム検討ワーキンググループ委
員

○奥田 一雄

1_全学

全学財務委員会委員

教育研究評議会委員

全学教育機構会議委員

総合人間自然科学研究科委員会委員

大学院入学試験委員会委員

2_学部等

黒潮圏総合科学専攻会議委員長

黒潮圏総合科学部門会議委員

人事委員会委員長

理学部教授会委員

理学専攻会議委員

○片岡 万里

ヒトES細胞倫理委員会委員

保健管理センター委員会委員

企画広報委員会委員

高知信用金庫・高知安心友の会医学研究基金運営
委員会委員

総合情報センター(図書館)運営委員会委員

○木下 泉

総合研究センター戦略運営委員会委員

総合研究センター海洋部門学系長・部門長

黒潮圏総合科学専攻部門学系長・部門長

○久保田 賢

1_全学

科学研究費等競争的資金獲得のためのタスクフ
ォース会議委員

○新保 輝幸

施設マネジメント専門委員会委員

2_学部等

予算・施設委員会委員長

自己評価委員会委員

幹事会委員

○関田 諭子

1_全学

ハラスメント防止委員会委員

2_学部等

自己評価委員会委員

○田口 尚弘

1_全学

準専攻専門委員会委員

2_学部等

教務委員会委員長

○田中 壮太

1_全学

生命・環境人材育成コース準備委員会委員

教育に関するポリシー検証委員会委員

2_学部等

黒潮圏総合科学専攻教務委員委員

黒潮圏科学編集委員委員

黒潮圏総合科学専攻人事委員会委員

黒潮圏総合科学専攻専攻長選挙管理委員会委員

農学部国際ワーキング委員委員

黒潮圏科学部門人事委員会委員

○富永 明

1_全学

動物実験委員会委員長

動物実験自己点検・自己評価委員会委員

2_学部等

ヒトES細胞倫理委員会

人事委員会

黒潮圏海洋科学研究科幹事会

黒潮圏海洋科学研究科教授会

黒潮圏科学編集委員会委員

中期目標・中期計画 WG 委員長

○中村 洋平

1_全学

総合情報センター運営委員会委員

総合情報センター選書委員会委員

授業料免除検討WG委員

2_学部等

人事委員会委員

教務委員委員

予算・施設委員委員

FS 実習世話人委員

黒潮圏総合科学専攻長選挙管理委員長委員長

○平岡 雅規

黒潮圏企画・広報委員会委員

総合研究センター海洋生物研究教育施設 図書

委員委員

高知大学海洋生物研究報告編集委員会委員

○堀 美菜

1_全学

図書館利用者協議会委員

学生生活実態調査検討 WG 委員

判定資料作成専門委員会委員

2_学部等

教務委員会（物部学務課学務グループ）委員

○溝渕 俊二

栄養サポートチーム委員長

褥瘡対策チーム委員長

1_全学

就職委員会委員

研究顕彰制度選考委員会委員

利益相反マネジメント委員会委員

2_学部等

卒業研究論文委員会委員長

Faculty development 委員会委員長

高知大学看護学会委員

高知大学医学部地区研究部門形態等施設（2 階）

の放射線作業管理責任者委員

臨床研究等利益相反マネジメント委員会委員

企画・広報委員会委員

○峯 一朗

1_全学

連携 FD/SD 実施部会委員

○山岡 耕作

総合研究センター海洋部門管理運営委員会委員

2_学部等

総務委員会委員

黒潮圏学編集委員会委員長

○石塚 悟史

1_全学

グリーンサイエンス GS コース実施準備委員会委員

2_学部等

国際・地域連携センター運営戦略室会議委員

国際・地域連携センター知的財産専門委員会委員

企画・広報委員会委員

○市村 高男

学生支援委員会委員

広報委員会委員

社会科教育コースのコース長委員長

大学院教育学専攻社会科教育分野の分野主任委員長

入学に関する審議決定委員会委員

(8) ボランティア

○飯國 芳明

松崎エコ基金, 高知県, 理事として参画している。

○伊谷 行

鏡川自然塾(運営委員会), ソーレなど, 市民に

よる鏡川の環境調査の指導

○片岡 万里

エナック, アジア, アジアの子供に対する教育のための経済的支援

○平岡 雅規

NPO 法人 INO, 沖縄県, 社会貢献活動の助言

○溝渕 俊二

NPO 法人 食と健康を学ぶ会, 高知県, NPO の立ち上げに貢献し、副会長を拝命した。食に関する講演会を開催したり、「リハビリキッチン」という高齢者の食を支援するユニークな活動を行っている。

○石塚 悟史

NPO 法人完全オゾン処理型循環ろ過機安全推進協議会, 高知県内, オゾン殺菌技術を用いた介護・福祉・医療分野における公益事業の支援

NPO 法人松崎武彦高知エコ基金, 高知県内, エコ活動に関する支援

土佐経済同友会健康福祉委員会, 土佐経済同友会, 健康福祉政策及び経済活性化についての検討

土佐経済同友会一次産業活性化委員会, 土佐経済同友会, 一次産業活性化に関する検討.

2. シンポジウム・セミナー等

(1) 黒潮圏シンポジウム

(開催なし)

(2) 国際シンポジウム・セミナー

1) 第5回黒潮圏科学国際シンポジウム

Adaptation to Climate and Socio-economic

開催日：2011年12月10日(土) - 12月11日

(日)

場所：台湾国立中山大学，高雄市

主催：台湾国立中山大学，高知大学

本学担当者：富永明

参加者：150名

プログラム：

Keynote Speeches：

Chen, Chen-Tung Arthur : Effects of global change
on marine ecosystems

Uematsu, Mitsuo : Linkages in biogeochemical
cycles between the surface ocean and lower
atmosphere over the western Pacific Ocean

Session 1 : Global Change and Ocean

• Organizer : Hung Chin-Chan

• Chairs : Chou Wen-Chen, Hung Chin-Chang

Session 2 : Global Change and Kuroshio Ecosystem

• Organizer : Morooka Yoshinori, Chen Allen

• Chairs : Morooka Yoshinori, Chen Allen

Session 3 : Biodiversity

• Organizer : Soong Keryea

• Chairs : Soong Keryea, Lin Hsing-Juh

Session 4 : Marine Resource and Management

• Organizer : Chang Shui-Kai

• Chairs : Chang Shui-Kai, Shih Yi-Che, Takahashi
Masayuki Mac, Iiguni Yoshiaki

Session 5 : Biomedicine and Bioactive Molecules

• Organizer : Tominaga Akira, Lee Tse-Min

• Chairs : Lee Tse-Min, Okuda Kazuo

Session 6 : Humanities and Societies

• Organizer : Lee Jeng-Di

• Chairs : Yoshio Hiroshi, Huang Hsin-ya

(3) その他のシンポジウム

(開催なし)

(4) 専攻・部門主催公開セミナー

演題：地球の現状を踏まえた、向こう100年の
社会のあり方 A future direction of human
society based upon the earth environment

演者：高橋正征 (東京大学・高知大学名誉教授)

日時：7月8日

場所：物部キャンパス黒潮圏総合科学専攻仮施
設2階会議室

参加者：17名

演題：沿岸域の「管理」と法制度—災害防御・
自然環境保全の法的仕組み

演者：三浦大介 (神奈川大学教授)

日時：7月10日 13:30-15:00

場所：朝倉キャンパス

参加者：7名

演題：海洋資源の持続的な利用と管理のあり方
を考える

演者：婁小波 (東京海洋大学教授)

日時：7月10日 15:30-17:00

場所：朝倉キャンパス

参加者：5名

演題：ファシリテーション概論

演者：畠中智子

日時：8月3日

参加者：8名

演題：温暖化に対応した最近の作物研究と食料
問題

演者：大杉立(東京大学教授)

日時：11月17日 15:30-17:00

場所：物部キャンパス 5-1 教室

参加者：83 名

演題：自然のルールに逆らわない社会の創生～

石油文明から生物文明へ～

演者：足立直樹

日時：11 月 18 日 14:00-15:30

場所：物部キャンパス 3-1-11 教室

参加者：25 名

演題：ダンゴムシの心理学 - 潮の目のサイエンス -

演者：森山徹 (信州大学助教)

日時：1 月 24 日 15:00-16:30

場所：農学部 3 号棟 1 階Ⅲ-1-11 教室

参加者：17 名

演題：Biosafety, Biodiversity and Sanitary and
Phyto-Sanitary Research at the Plant

Quarantine Support Laboratory, National
Crop Protection Center, Crop Protection
Cluster, College of Agriculture, UP Los
Baños

演者：Bonifacio F. Cayabyab (フィリピン大学教授)

日時：1 月 26 日 16:00-16:40

場所：朝倉キャンパス総合研究棟 2 階会議室 3

参加者：13 名

演題：岩手県山田町で採集した日本新産・新種の紅藻

演者：鈴木雅大 (東京大学特任研究員)

日時：2 月 24 日 14:00-15:00

場所：朝倉キャンパス 理学部一号館 2 階 理学部第 2 会議室

参加者：6 名

VI. マスコミ報道

1. 広報・啓発活動

○伊谷 行

テレビ. 「青少年のための科学の祭典」高知大会をNHKのこうち情報BOXで特集。実験内容の事前収録は教育学部3号棟の生物学実験室にて。生放送の出演は実行委員会学生部会の佐藤あゆみ(伊谷研究室)。2011年12月

○木下 泉

新聞. 四万十アユの実態, 2011年4月

新聞. 四万十アユ激減三つの要因, 2011年4月

○原田 哲夫

テレビ. RKC高知放送 夜9時55分から放送の「子育て応援団」に2011年7月、8月、9月にそれぞれ3分半ずつ出演, 「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得! についての科学的根拠と睡眠科学の基礎知識。朝型生活にするための、具体的方策。光環境、朝食の内容、24時間型関連因子などについて取組の奨励。、2011年7月-2011年9月

○平岡 雅規

新聞. 2011年2月4日静岡新聞で、“目指せ「川ノリ」養殖 松崎「花とロマンの里研究会」 専門家招き講演会”という見出しの記事で静岡県松崎町で川ノリについて講演したことが紹介される。、2011年2月

新聞. 2011年6月23日高知新聞で、“中国の海に

同種 四万十川汽水域のスジアオノリ 平岡・高知大准教授ら分析”の見出しの記事で、2011年にPLoS ONEに発表したアオノリについての論文が紹介された。2011年6月

新聞. 2011年7月6日高知新聞で、「陸で育て! スジアオノリ 四万十市 建設業者が養殖挑戦」の見出しの記事で四万十市の建設業者が取り組む陸上養殖を支援していることについて紹介された。2011年7月

新聞. 2011年7月31日中日新聞で、“松崎産「川ノリ」年中すくすく 地元研究会が養殖実験に成功”の見出しの記事で、松崎町で実施の川ノリ陸上養殖を支援していることについて紹介された。2011年7月

テレビ. 2012年2月3日北日本放送KNB NEWSの中で、富山市で計画中の海藻バイオマス利用事業について取材された内容が放送された。<http://www2.knb.ne.jp/news/index.asp>, 2012年2月

○山岡 耕作

テレビ. 四国一周海遍路, 2011年10月-2011年11月

テレビ. 黒潮源流域シーカヤック調査, 2010年5月-2012年4月

新聞. 黒潮源流域シーカヤック調査, 2010年5月-2012年4月

新聞. 四国一周海遍路, 2011年10月-2013年10月

ラジオ. 四国一周海遍路, 2011年10月-2013年10月

2. 新聞報道等

| 掲載日 | 掲載紙 | 【見出し】 および記事の概略 |
|------------|------|--|
| 2011.4.8 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮実感センター－】被災した子を柏島へ（神田 優：センター長） |
| 2011.4.22 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮生物研究所－】なぎさで探索（岩瀬 文人：研究所長） |
| 2011.4.28 | 毎日新聞 | 【四万十川アユなぜ激減】「アユ報告会」における講演（木下 泉） |
| 2011.4.28 | 朝日新聞 | 【四万十川アユなぜ激減】「アユ報告会」における講演（木下 泉） |
| 2011.5.14 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮実感センター－】柏島発、里海づくり（神田 優：センター長） |
| 2011.5.28 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮生物研究所－】設立10年の節目に（岩瀬 文人：研究所長） |
| 2011.6.11 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮実感センター－】黒潮源流域をさぐる旅（神田 優：センター長） |
| 2011.6.23 | 高知新聞 | 【四万十川汽水域のスジアオノリ、中国の海に同種】中国黄海で大発生している青島（チンタオ）アオノリの調査（平岡 雅規） |
| 2011.6.25 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮生物研究所－】テングサ大好きなアオウミガメ（田中 幸記（大学院生）） |
| 2011.6.29 | 高知新聞 | 【磯焼けの藻場が復活、大月町柏島の竜ヶ浜】地元のウニ除去活動奏功（神田 優：センター長） |
| 2011.7.6 | 高知新聞 | 【陸で育て！スジアオノリ】建設業者の養殖挑戦を助言（平岡 雅規） |
| 2011.8.3 | 高知新聞 | 【手漕ぎ舟で黒潮を行く】漁民調査 足摺岬まで3000キロ（山岡 耕作） |
| 2011.8.14 | 高知新聞 | 【海から四国発見】高知大、黒潮実感センターが「海廻路」、シーカヤックで一周へ（山岡 耕作） |
| 2011.8.20 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮実感センター－】人を怖じない魚たち（神田 優：センター長） |
| 2011.9.9 | 朝日新聞 | 【シーカヤックで四国88漁村海廻路】海と人の関わり3年かけ調査へ（山岡 耕作） |
| 2011.9.17 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮実感センター－】砂潜り名人アサヒガニ（神田 優：センター長） |
| 2011.10.3 | 高知新聞 | 【黒潮生物研究所10周年】大月を海洋研究の中心に（岩瀬 文人：研究所長） |
| 2011.10.7 | 高知新聞 | 【創立10年の黒潮生物研究所】海に挑む科学者／地域の研究世界へ（岩瀬 文人：研究所長） |
| 2011.10.8 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便り－黒潮生物研究所－】マイナー生物研究の孤独（岩瀬 文人：研究所長） |
| 2011.10.14 | 読売新聞 | 【シーカヤックで四国一周】海洋文化調査 体張って／高知大教授と黒潮センター長ら（山岡 耕作） |

| | | |
|------------|----------------|--|
| 2011.10.17 | 高知新聞 | 【四国「海遍路」スタート】まず本県横断 沖から魅力発見（山岡 耕作） |
| 2011.10.22 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】黒潮が近づく季節（神田 優：センター長） |
| 2011.11.5 | 高知新聞 | 【「海遍路」本県を"走破"】東洋町に到着 松延町長らと意見交換（山岡 耕作） |
| 2011.11.5 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮生物研究所ー】南国にもコンブの仲間（田中 幸記（大学院生）） |
| 2011.11.17 | 日本経済新聞 | 【海から沿岸社会再発見】カヤックで漁業者訪問（山岡 耕作） |
| 2011.11.19 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】四国一周！海遍路（神田 優：センター長） |
| 2011.12.17 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】北西風の贈り物（神田 優：センター長） |
| 2012.1.21 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】ひょっとこ顔の大衆魚（神田 優：センター長） |
| 2012.2.4 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮生物研究所ー】四万十高生が自然体験（岩瀬 文人：研究所長） |
| 2012.2.18 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】浜辺の宝石微小貝（神田 優：センター長） |
| 2012.3.3 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮生物研究所ー】季節を告げる海藻たち（田中 幸記（大学院生）） |
| 2012.3.14 | 高知新聞 | 【柏島の自然 50 人満喫】海上からサンゴなど観察（神田 優：センター長） |
| 2012.3.17 | 高知新聞 | 【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】ウニの不思議（神田 優：センター長） |
| 2012.3. | KU Campus News | 【"Umihenro"! KU Agriculture Professor Research Kuroshio by Kayak】海遍路の紹介（山岡 耕作） |